



エフピコレポート 2022



株式会社 エフピコ



エフピコは食品トレー・容器の製造・販売事業において 「現場主義」「顧客第一主義」を貫きます

人々のニーズや社会の価値観などに沿った真に有用な製品を生み出し続けることを目指し、エフピコは「現場主義」「顧客第一主義」を徹底し、製造業としての基本3本柱である「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」を実践しています。食品トレー・容器が使用される現場、販売される現場、そして製造・保管・輸送・納品される現場において重要なことは何か、求められることは何かを考え続けることにより、たゆまぬ進歩を続けています。

エフピコは皆様のご協力をいただき 地上資源循環型リサイクルを推進します

エフピコは消費者の皆様、スーパーマーケット様、包材問屋様と一体となって地上資源の循環型リサイクル活動を推進しています。豊かな食文化の創造とともに持続可能な社会の構築に大きな役割を果たしていくことを目指し、取組みを進化させます。



CONTENTS

- ◆ トップメッセージ
- ◆ 企業プロフィール
- ◆ エフピコの“ものづくり”
- ◆ エフピコの“人の輪づくり”
- ◆ エフピコとSDGs
- ・ データで見るエフピコ
- ・ エフピコのあゆみ
- ・ 社会的な評価

食品トレー・容器の製造・販売が根幹事業のエフピコですが、その価値創造は多彩な広がりを持っています。



代表取締役会長
(兼) エフピコグループ代表
佐藤 守正

エフピコの価値創造は

高付加価値製品をお届けする“ものづくり”とサステナブルな社会を目指した“人の輪づくり”という二つの創造的活動により行われています。

高い付加価値を持つ食品トレー・容器を製造するための“ものづくり”の創意工夫は、創業時より連綿と続き進化を続けています。エフピコがつくる食品トレー・容器は日々の食生活の中で様々な利便性を提供したり、楽しい食事の時間を演出するだけでなく、食品ロスの削減を始めとして地球環境保全にも役立っています。

サステナブルな社会を目指した“人の輪づくり”は、使用済み食品トレー・容器をリサイクルする社会システムを構築することから始まりました。様々な立場の人々との協力関係を築くうちに、それまでになかった新しい価値を生み出す力を持つ人の輪が出来上がってきました。

この二つの創造的な活動により、価値を創造し続けるエフピコの姿をご覧いただければ幸いです。

会社概要

商号	株式会社エフピコ
設立	1962年(昭和37年)7月
代表者	代表取締役会長 (兼)エフピコグループ代表 佐藤 守正 代表取締役社長 安田 和之
資本金	13,150百万円
社員数	962名(エフピコグループ：4,792名)
事業内容	ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
福山本社	〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
東京本社	〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー(総合受付36階) TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811



ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パル紙工」に由来しています。



福山本社(広島県福山市)



東京本社(東京都新宿区)

グループ会社

製造

株式会社エフピコ北海道	株式会社エフピコ鳥栖
株式会社エフピコ山形	エフピコダックス株式会社
株式会社エフピコ茨城	エフピコ愛パック株式会社
株式会社エフピコ八千代	エフピコアルライト株式会社
株式会社エフピコ下館	エフピコグラビア株式会社
株式会社エフピコ筑西	西日本ペットボトルリサイクル株式会社
株式会社エフピコ富山	
株式会社エフピコ中部	
株式会社エフピコ兵庫	
株式会社エフピコ笠岡	
株式会社エフピコ福山	
株式会社エフピコ神辺	
株式会社エフピコ九州	

物流

エフピコ物流株式会社
株式会社アイ・ロジック
エフピコイーストロジ株式会社
エフピコウエストロジ株式会社

販売・その他

エフピコ商事株式会社
エフピコチューパ株式会社
エフピコダイヤフーズ株式会社
エフピコインターパック株式会社
エフピコイシダ株式会社
エフピコ上田株式会社
エフピコみやこひも株式会社

エフピコグループの製造・物流・販売・リサイクルのネットワーク

★本社

- ・福山本社(広島県福山市)
- ・東京本社(東京都新宿区)

★支店

- ・大阪支店(大阪府大阪市)

●営業所

- ・札幌営業所(北海道札幌市)
- ・仙台営業所(宮城県仙台市)
- ・静岡営業所(静岡県静岡市)
- ・新潟営業所(新潟県新潟市)
- ・北陸営業所(石川県金沢市)
- ・名古屋営業所(愛知県名古屋市)
- ・広島営業所(広島県広島市)
- ・四国営業所(香川県高松市)
- ・福岡営業所(福岡県福岡市)

●生産工場

- ・北海道工場(北海道石狩市)
- ・山形工場(山形県寒河江市)
- ・関東工場(茨城県八千代町)
- ・関東八千代工場(茨城県八千代町)
- ・関東エコバット工場(茨城県八千代町)
- ・関東下館工場(茨城県筑西市)
- ・筑西工場(茨城県筑西市)
- ・関東つくば工場(茨城県下妻市)
- ・富山工場(富山県射水市)
- ・中部工場(岐阜県輪之内町)
- ・中部エコバット工場(岐阜県輪之内町)
- ・近畿亀岡工場(京都府亀岡市)
- ・笠岡工場(岡山県笠岡市)
- ・福山工場(広島県福山市)
- ・神辺工場(広島県福山市)
- ・四国工場(高知県南国市)
- ・九州工場(佐賀県吉野ヶ里町)
- ・南郷工場(宮城県日南市)
- ・鹿児島工場(鹿児島県鹿児島市)

●リサイクル工場 / 選別・減容センター

- ・関東リサイクル工場(茨城県八千代町)
- ・中部リサイクル工場(岐阜県輪之内町)
- ・福山リサイクル工場(広島県福山市)
- ・北海道減容センター(北海道石狩市)
- ・山形選別センター(山形県寒河江市)
- ・関東選別センター(茨城県八千代町)
- ・東海選別センター(静岡県長泉町)
- ・松本選別センター(長野県松本市)
- ・金沢選別センター(石川県金沢市)
- ・岐阜選別センター(岐阜県輪之内町)
- ・西宮選別センター(兵庫県西宮市)
- ・福山選別センター(広島県福山市)
- ・九州選別センター(佐賀県神埼市)
- ・西日本ペットボトルリサイクル(福岡県北九州市)

●配送センター / ピッキングセンター

- ・北海道配送センター(北海道石狩市)
- ・東北配送センター(山形県寒河江市)
- ・関東ハブセンター(茨城県八千代町)
- ・八王子配送センター(東京都八王子市)
- ・東海配送センター(静岡県長泉町)
- ・中部ハブセンター(岐阜県輪之内町)
- ・関西配送センター(兵庫県神戸市)
- ・福山ハブセンター(広島県福山市)
- ・九州配送センター(佐賀県吉野ヶ里町)
- ・北海道ピッキングセンター(北海道石狩市)
- ・東北ピッキングセンター(宮城県大衡村)
- ・関東ピッキングセンター(茨城県八千代町)
- ・茨城ピッキングセンター(茨城県八千代町)
- ・八王子ピッキングセンター(東京都八王子市)
- ・新潟ピッキングセンター(新潟県長岡市)
- ・中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)
- ・関西ピッキングセンター(兵庫県神戸市)
- ・福山ピッキングセンター(広島県福山市)
- ・九州ピッキングセンター(佐賀県吉野ヶ里町)

主な製造・販売製品

汎用 サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能



寿司 新鮮さを損ねず美味しさを食卓まで運ぶ



精肉 衛生的で肉の旨味や色味も引き立てる



クリアパッケージ 透明な容器が鮮度も美味しさも伝える



フードパック 衛生的で便利な機能を付加



その他 紙容器、鶏卵パック、フィルム製品など



鮮魚 新鮮な海の幸の魅力を引き立てる



米飯 サイズと色柄でさまざまな用途に活用が可能



惣菜 電子レンジ対応などで扱いやすい



催事 人が集まる楽しい催事に最適



デリバリー 様々なメニューの配達に適した容器類



エフピコ製品の主な特長

■環境への配慮

- プラスチック使用量を削減した製品
高発泡の素材を使った発泡トレー（左）。見栄えを変えることなく製品の重さを66%削減しています。また、i-タルクという素材の配合を増やすことで強度を変えずに重さを17%削減した製品（右）も2022年3月に上市しました。



●リサイクル製品

使用済みトレー・容器やペットボトルをリサイクルした「エコトレー」「エコAPET」「エコOPET」は、製造から廃棄までのライフサイクルの中で、リサイクル原料を使用しない場合に比べてCO₂を30%削減します。



■電子レンジ対応

電子レンジの加熱に適した耐熱性（110℃）を持つほか断熱性、保温性にも優れた容器。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。



■優れた耐油性

耐熱性が高いだけでなく耐油性にも優れた透明容器。MCT油脂等により脆化せず、破損しません。電子レンジで温惣菜をそのまま加熱することもできます。



■水分が漏れなく開けやすく閉めやすい

容器が傾いても水分がこぼれない十分な気密性を持つ容器。閉まった時にパチンと音が鳴り、外れ難く開けやすい構造を実現しています。



■中身がずれない

底に食品を配置しやすくするための枠やガイドの凹凸を付けた容器。店舗スタッフが陳列する時、お買い上げ後の持ち帰り中でも中身がずれにくい容器。



関東、中部、福山の生産・物流・リサイクル主要拠点

エフピコは全国に製造・物流・販売・リサイクルのネットワークを有していますが、事業の効率化向上を目的として生産、物流、リサイクルの3つの関連施設を集積した拠点を設けています。自社物流を展開しリサイクルも行っているエフピコにとって、建物を繋ぐ通路やパイプラインは工程をシームレスに繋ぐ上で非常に効果的な設備です。



■関東

関東第1・第2・第3工場
関東八千代工場
関東ハブセンター
関東配送センター
関東ピッキングセンター
関東エコペット工場
関東リサイクル工場
関東選別センター



■中部

中部エコペット工場
中部ハブセンター
中部ピッキングセンター
中部リサイクル工場
岐阜選別センター
(数キロ離れた場所に中部工場も位置しています)



■福山

福山工場
福山ハブセンター
福山ピッキングセンター
福山リサイクル工場
福山選別センター

研究開発、研修、会議など事業全般を支える「エフピコ総合研究所」

福山本社の正面に建てられたエフピコ総合研究所は、研究開発と人材育成のための複合施設です。製品開発部と基礎技術研究室のオフィスの他、4階フロアはすべて人材育成のための施設として大小合わせて12の研修室と討議室があります。製品の研究開発のための各種テスト室、試験室、サンプル作業室なども充実し、最新の設備を備えています。



関西の新施設

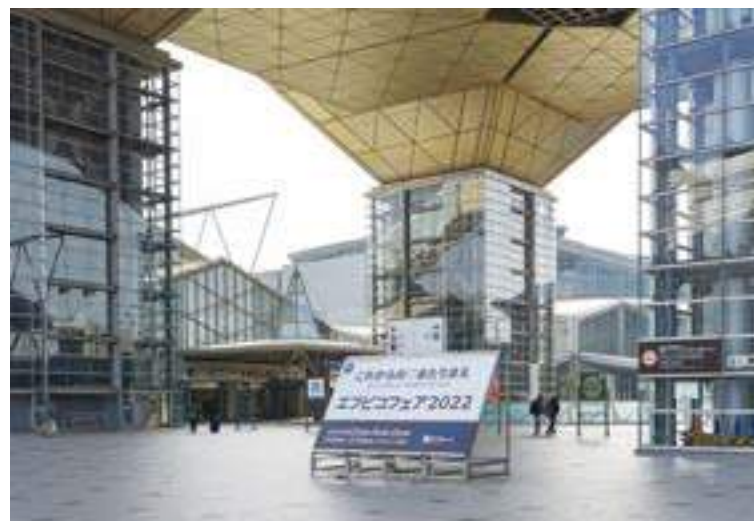


現在、関西地域における新たな核となる施設を兵庫県小野市に建設しています。2023年1月に稼働予定のこの施設は、敷地面積約48,000㎡。関西工場と関西ハブセンターが併設され、約200人が働く見込みとなっています。この新しい拠点の誕生により、事業拠点からの半径150km圏内で全人口の約7割をカバーするネットワークが完成することとなります。

エフピコの全てをお見せする年に一度の「エフピコフェア」

毎年3月、東京ビッグサイトで実施している「エフピコフェア」は、エフピコの全てをお見せする一大イベントです。ご来場されるのは全国のスーパーマーケット、コンビニエンスストア、惣菜などの食品小売り店、包材問屋などのお取引様をはじめエフピコに関心を寄せられている方々。毎年、開催期間の3日間で1万数千人の方々にお越しいただいています。

第三者が主催する食品や容器をテーマとした展示会にブース出展するよりも、展示ホール全部を使っの総合プレゼンテーションを行うことでエフピコを深く知っていただきたいというのがこのフェアを開催する理由です。この3日間のため、多くの社員が約半年をかけて準備を行います。食品トレー・容器の展示を中心としたイベントですが、物流やリサイクル事業なども含め、エフピコの全てがご理解いただける内容となっています。



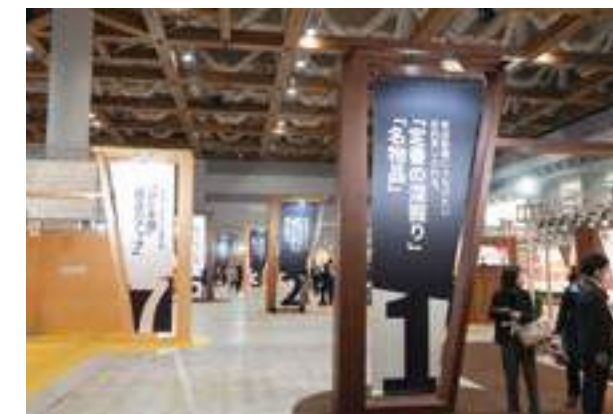
スタートした当初からのフェア最大の特徴は、会場内に食品売り場を再現することです。エフピコの容器を効果的に活用いただくための様々なアイデアをふんだんに盛り込んだ展示を行っています。



新年度のスタートにあたっての新製品のお披露目の機会ともしています。製品のマイナーチェンジは常に行われていますが、機能性・利便性の高い特にイチオシの新製品などはこうしてお薦めアイテムとして紹介します。



“チームX”と銘打ったエフピコと他社様とのコラボレーション施策の紹介。実に多くの製品がこうした協働の結果として新たな価値を見出しています。



ご招待する食品販売に関わる方々の目線からのテーマを毎年設定しています。店舗においてどのような施策が今求められているのかを、エフピコの食品トレー・容器を使ったソリューションとして展示しています。



製品展示以外にもエフピコの自社物流について、またリサイクル事業やインクルージョン活動についてなどの展示も行います。エフピコのバリューチェーンはこれらの全てが絡み合っ展開しますので、フェアでは必須の展示です。



2022年のフェアでは「環境」「冷凍」「オペレーション改善・機能性」「売れるトレンド」という4つのテーマを掲げ、お客様にとって有用となる情報をその実例と共に展示しました。



エフピコの2つの価値創造

2022年に創業60周年を迎えるエフピコの歴史は、食品トレー・容器という新しい価値を持つ“ものづくり”の歴史でもあります。食品の購入に“あるだけでも便利”だった容器を進化させ続け、様々な付加価値を生み出してきた60年です。

そして1990年には環境問題への取組みとして使用済みトレーのリサイクルをスタート。この「エフピコ方式リサイクル」と呼ばれる活動の輪は今では社会全体に広がっています。多くのステークホルダーの方々と協働するオープンなマインドはさらに様々な活動へと繋がり、エフピコは“人の輪づくり”というもうひとつの価値創造も続けてきました。

食品容器・トレーにおける

ものづくり

衛生的、保存に便利、電子レンジ対応、保温効果、持ち運びに便利など数えきれないほどたくさんの利便性と有用性を持つ食品トレー・容器を製造し、食卓に笑顔、毎日の食生活にゆとりを生み出すお手伝いをしています。エフピコのものづくりの核となっているのは、7つの部門が有機的に繋がって構成されるバリューチェーン。素材の調達から始まり、造って、運んで、売って、回収して再び造るというプロセスをひとつの大きな輪として回し続けています。



エフピコ方式リサイクル



社会における人の輪づくり

食品トレー・容器のリサイクルという社会規模のネットワークを構築していく上で“人の輪づくり”は必然でした。様々な立場の方たちにアプローチを行い、コミュニケーションを取りながらお互いの理解を深め合う、そして共通の目的を達成していく。SDGsの取組みの先駆けである取組みから、さらに他者との協働で新しい価値を創造する活動を続けています。



製品に高付加価値を与える エフピコの“ものづくり”

エフピコのものづくりの特徴は循環型であるというところにあります。それを可能にしているのは、自社物流とリサイクル事業。生産そして販売した製品がご家庭などで使用された後、自社物流を活用して回収し、リサイクル工場ですべて製品の素材となります。これにより、ものづくりが一方通行ではなく、輪となって再び同じ軌道に乗ってスタートするのです。

価値創造の相乗効果を生み出す エフピコのバリューチェーン

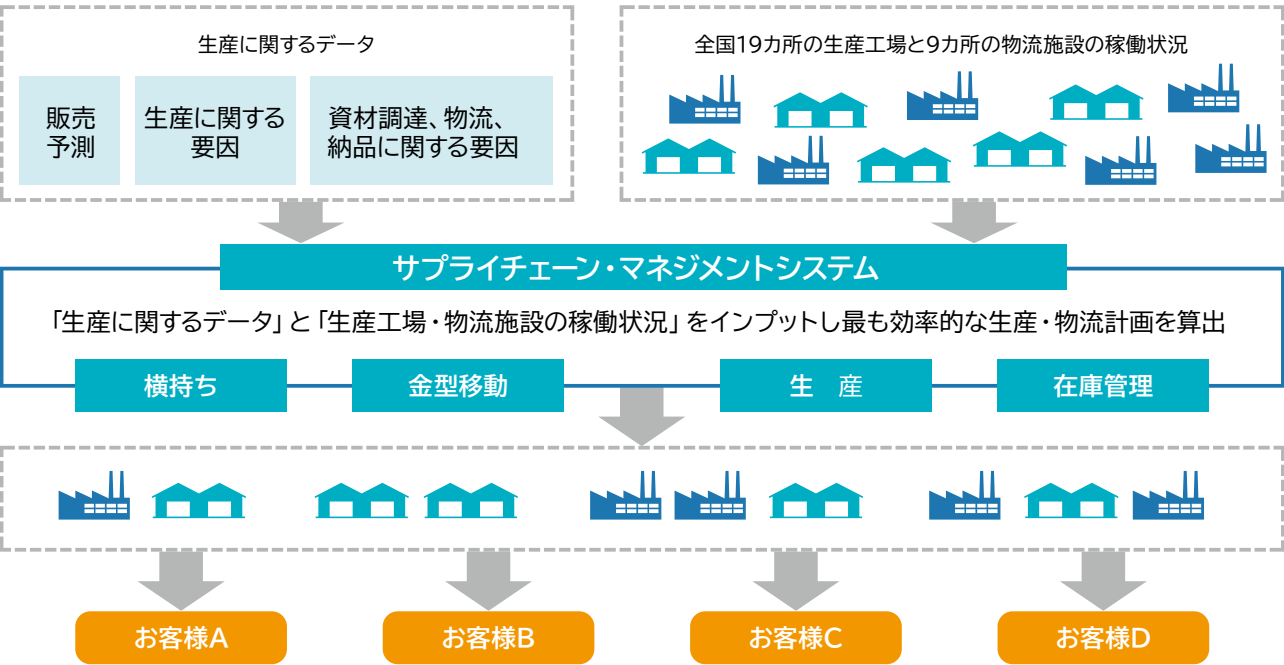
ものづくりが循環型であることによるメリットは価値創造の相乗効果です。エフピコのバリューチェーンには以下のように7つの工程がありますが、ひとつの工程で取り組む改善（価値創造）は大抵の場合、他の工程にも関係してきます。例えば、効率良く製品を運ぶためにケースのサイズを変えたという場合、それはケース内にスタックする製品の形状に関係しますし、製品の形状はお客様にも当然関係してきます。そこでエフピコでは異なる工程に情報共有と試行錯誤を重ねながら問題解決に取り組む。関係する部門すべてで創意工夫がなされ、価値創造に繋がっていきます。

循環型のものづくりは製品の循環というエコロジカルな側面だけでなく、価値創造という意味においてもエフピコの事業展開の大きな特長となっています。



バリューチェーンの司令塔 サプライチェーン・マネジメントシステム

関係部署が複雑に絡み合い効率的かつ創造性豊かにものづくりを行うエフピコのバリューチェーンの中心には、サプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）の活躍があります。自社物流をかかえ使用済み製品のリサイクルまで行うエフピコならではの事業計画管理システムであり、製品に関する全ての工程を把握、コントロールしています。各工程の現場の声を聞きながら、様々な条件の中で最適で最も効率的な計画を導き出しています。



例えば、お客様に納品する製品・商品については、どの工場で生産し、どの倉庫の在庫を使用し、どの配送センターから発送すれば、最も無駄のない生産・物流計画であるかを算出しています。

生産に関するデータは予測も含まれているため計画は完璧とまではいきませんが、過去の実績を基にAIがさらに精度を上げる施策を実行しています。



エフピコのものづくりを強力に推進する関係部署メンバーの座談会はP.31-32をご覧ください。

調達 PROCUREMENT



エフピコは製品製造における素材の半分近くを自社リサイクルで調達し、残りは外部のサプライヤーから調達しています。サプライヤーの方々は単に購入のお付き合いではなく、お互いの価値向上に繋がる発展的な関係構築を目指しています。



安全性・社会的適合性の確保

その品質や安全性はもちろんのこと、素材が社会的に適合した方法で調達されていることを担保しなければなりません。特にバージン素材の場合、サプライヤーが公正・透明な方法で選定されているか、また法令遵守を履行しているサプライヤーかどうかなどを明確にするため、エフピコでは「CSR調達方針」を設けて調達の業務を行っています。

エフピコCSR調達方針

1. 品質本位

お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

2. 公正な取引

経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮などを総合的に勘案し、公正、透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

3. 法令等遵守

調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

4. 社会的課題への配慮

基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

5. 環境への配慮

当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

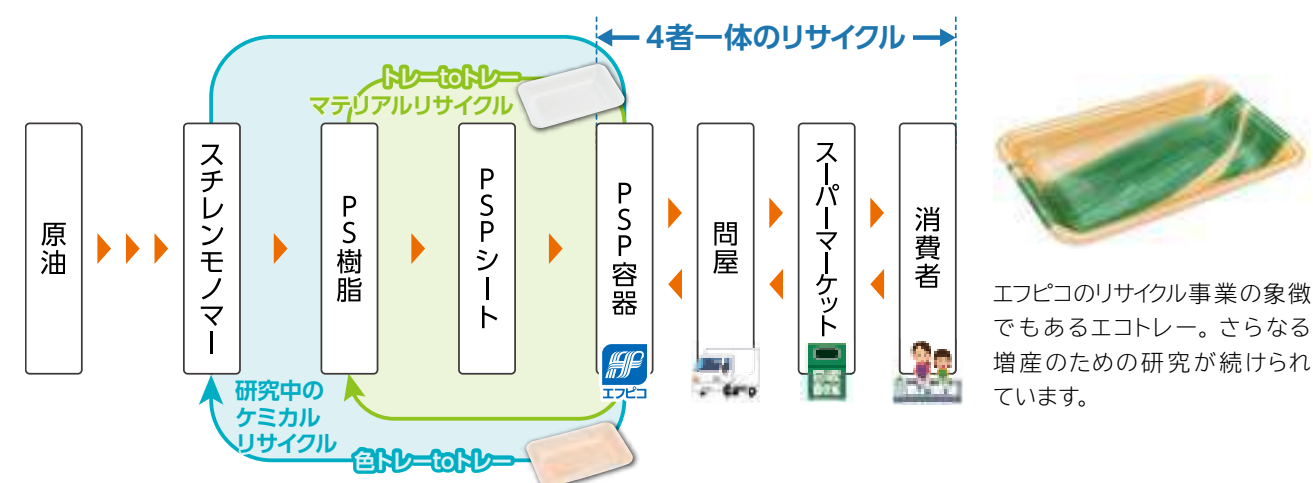
6. サプライヤーとの協働

調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。

調達におけるサステナビリティ

●ケミカルリサイクル実現に向けての研究

現在エフピコが製造・販売している環境配慮製品「エコトレー」は、使用済み製品をペレット（下図の「PS樹脂」）という素材にリサイクルしたものから造られています。これを“マテリアルリサイクル”と言いますが、PS樹脂のひとつ前の工程のスチレンモノマーという素材から製造を行う“ケミカルリサイクル”という方法を採用すれば、リサイクル可能な製品の種類も増え、さらなるCO₂削減に繋がります。この研究は前年度に引き続き継続中で、早期の実現を目指しています。



エフピコのリサイクル事業の象徴でもあるエコトレー。さらなる増産のための研究が続けられています。

●新素材の開発とパルプを始めとする非石化型素材の検討

調達部門ではリサイクル素材とバージン素材に加え、マーケットやお客様の様々なニーズに応えられる新素材の調達活動も行っています。現在、営業本部、生産本部、総合研究所との連携によりバリア機能、イージーピール機能、耐寒・耐熱機能などを持つ新しい素材も開発しています。こうした素材の調達により、さらに高付加価値を持つ製品の製造が可能となります。また、紙やパルプ、バイオ素材を使った非石化型素材の使用も研究しています。今年度は新しい紙トレー製品も上市しましたが、素材となる紙にはFSC認証紙を使用し、更に耐水・耐油仕様の高い機能性の製品となっています。



※FSC認証とは、環境保全の観点から見て適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理を目的とした国際的な認証制度。

海外企業との協働による取り組み

調達を担当する商事本部は海外における展開もその業務範囲となっており、海外企業からの素材の調達や海外での販路拡大活動も行っています。具体的には海外メーカーの2社と紙製品の輸入の検討、海外のパルプ成形機械メーカーとの共同研究などです。また、以前より検討してきたマレーシア最大の食品容器メーカーの買収に関して、2022年5月に株式売買契約を締結しました。今年秋口には買収手続きが終了し、新たにエフピコグループの一員となった暁には様々な形でビジネスの相乗効果を生み出していく予定です。エフピコの技術力により競争力の高い製品を製造し、アジア市場での拡大が期待されています。

マーケティング MARKETING



マーケティング活動のスタート地点はお客様のニーズ、そして社会の中で生まれたニーズです。必要とされているもの、求められているものを把握し、それを製品・サービスという形で提案するために情報を収集、整理するのがエフピコのマーケティング活動です。

社会のトレンドや食生活の変化に対応

マーケティングに関わる部門が持つ役割のひとつは、社会全体から製品・サービスのニーズを見つけるということです。そのスタート地点は現場です。社会の中で起こっている食に関わる変化は食品販売の現場に顕れるため、スーパーマーケット様や問屋様で起こっている変化やそこで生じた課題に関する情報をいち早く収集できるよう、常にアンテナを張り巡らしています。例えば、ある取引先のスーパー様で「ここ10年の進化が一気に2～3年で起きた」との声をお聞きし、より深くお話を伺って得た情報を関係するバリューチェーンの他の工程の部門にも迅速に提供しています。2022年のエフピコフェアで取り上げたカラフルなデリバリー用の容器や健康志向のニーズから生まれた大豆のメニュー用の容器の提案も現場発の社会トレンドを反映した展開です。こうしたマーケティングの役割は今後も大きくなっていきます。



白、ベージュ、グレーなどの定番だったテイクアウト用の紙容器でしたが、「食にもっと楽しさがあってもいい」という考えでデザインされたカラフルな容器。お客様からはポジティブな評価をいただいています。



価値を生む他社様とのコラボレーション「チームX」

「チームX」は他社様とのコラボレーションで展開する営業スタイルで、エフピコはこの共創型営業を「チームX」と名付けています。エフピコ製品の活用方法を食材メーカー様など他社の製品の特徴と組み合わせ、魅力的な商品を生み出しています。またこのコラボレーションはエフピコの製品の活用方法だけに留まらず、人手不足対策やより付加価値の高い商品づくりのために複雑化するバックヤードのオペレーションの解決法などの面でも協働しています。近年では機械メーカー様のコラボやオペレーションを軸にした提案も進めており2022年のエフピコフェアでは厨房機器メーカー様との協働による「チームX」を紹介しました。



営業活動の後方支援としてのマーケティング

マーケティング部門が果たすもうひとつの大きな役割は、営業スタッフの販売サポートです。年に一度のエフピコフェアの開催準備、営業所ごとに行うエリア単位での勉強会の実施、販売促進サイト「売れNavi」を通じた企画・提案活動を応援する資料づくりなど、様々な形で販売サポートを展開しています。また、エフピコのマーケティング部門が行っているユニークな活動に、価値創造情報の共有があります。お客様からいただいた日々の取り組みや容器の活用例の情報を整理し、様々な価値を生み出す施策情報として広く他のお客様へ提供するというものです。営業スタッフを媒介とした広範囲な情報の共有により、お客様もエフピコも販売を活性化させるという相乗効果を生み出しています。



社内のキッチンスタジオでのトレー・容器を使った売り場イメージづくり



製品開発

PRODUCT DEVELOPMENT



食品トレー・容器をつくることは工芸品の制作のようでもあります。無駄をそぎ落として機能美を追求しつつも、“なぜこの容器をつくるのか”という根本的な理由を常に大切にしています。



お客様のニーズを付加価値という形にして製品化

「お弁当や惣菜をそのままレンジアップできないか」という数十年前のニーズからスタートし、現在ではスープと麺と具を一緒に温めて食べる直前に合わせる等、当時では考えられなかった美味しさを追求した容器を開発しています。お客様のニーズは多種多様に増え続け、エフピコの製品開発も進化を続けています。ニーズを形にするという価値創造を行っているのが、バリューチェーンのなかの製品開発工程です。



製品開発

- 販売を始めとした他のバリューチェーン工程からの声（お客様のニーズ、設計上の課題、業務上の要望、気づき、アイデア等）を受けて、容器開発部が断片的なアイデアや抽象的なイメージを図や模型などの形にします。
- 形となった様々なニーズを製品開発部が一つひとつ検討し、設計図に描き起こします。
- 設計図の作成から新しい容器の完成までは約2カ月から半年。年間約2,000の新製品をつくっています。



それぞれの現場で発見、着目した様々な気づき、アイデアや提案

- ・素材の特性や製造上の都合での要望。
- ・製造過程での気づき。

製造

- ・ケースのサイズとの兼ね合いでの調整リクエスト。
- ・スタックに関する情報。

物流

- ・新しいコンセプトの製品開発の要望。
- ・新しい機能の提案。

マーケティング

- ・お客様からの課題を伝達。
- ・新しいアイデアの検討の要望。

販売

様々なエフピコのトレー・容器開発技術

食品トレー・容器の機能性を高め続けてきたエフピコの長年の経験と蓄積したノウハウにより、様々な技術を開発してきました。以下はそのいくつかの例ですが、開発技術は進化を続けています。

① あんしん嵌合®

蓋がきちんと閉まったことを示す“パチン”という音が鳴り、作業者に確認の合図を出します。また開けやすいことも特徴です。中身の1.5倍の重量物を吊しても大丈夫なほど強固な嵌合を実現しています。



② 連結嵌合

コロナ禍で需要が増えたデリバリーにおける容器輸送の利便性を追求しました。二人前、三人前など複数の商品を運ぶのに便利です。バイクなどでの輸送時でも商品が崩れにくいように容器同士をしっかりと連結します。また汁漏れしにくい内嵌合式と内外嵌合式により、ラーメンなどの汁物商品にも適しています。



③ セーフティエッジ®

非常に薄い容器の縁で指などを傷つけないよう、縁に極小の凸凹加工を施すことにより抵抗が生じ、触れた指や手が滑りにくくなります。スーパーマーケットなどでの作業やご家庭内で容器を扱う際の安全性を確保しています。



④ プラスチック使用量の削減

強度と見栄えを変えることなく使用するプラスチックの量を削減することは、エフピコが長年取り組んでいる課題です。その手法としては発泡率の増大、新素材の開発、デザインの工夫などです。プラスチック使用量の削減は環境負荷の低減や製品の軽量化など様々なメリットを生み出しますが、これは時代の要請に応える施策であり、継続して実施しています。



製造 MANUFACTURING



「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」という理念を追求する上において、製造部門にとって最も重要な製品の安定供給を守り続けています。

SCMとの両輪による計画生産・安定供給

昨年、一昨年とテイクアウトやデリバリー用容器の需要が急激に高まりましたが、需要の急増を理由にお客様への納品を滞らせるということがあってはなりません。どのような状況下においても計画的な生産と安定供給を実現しているのは、前述のSCMです。SCMが立案する計画は、各工場の現場スタッフの経験や創意工夫によって最も効率的に実行され、計画実行の際に見つかったズレをSCMにフィードバックし、次の生産計画の精度を高めるというサイクルが繰り返されています。エフピコにとって“欠品ゼロ”は最優先事項のひとつです。



“ものづくり”のための“ひとづくり”

生産本部では生産現場での作業効率アップや人材育成を目的とした「ものづくりプロジェクト」を20年以上にわたり実施しています。製品を生産しているのは機械ですが、その機械を動かすタイミングや強度の加減などは人の手に委ねられています。大小合わせて全国30を超える生産工場の現場で働く2,000人近くのスタッフの技能レベルを維持し、さらに向上させていく“ひとづくり”の重要性は言うまでもありません。「ものづくりプロジェクト」は生産現場で様々なプログラムを実行するだけでなく、報告会や発表会などにより他の工場との情報共有も行っています。また、研修用のための工場を稼働する計画もあり、エフピコの“ひとづくり”は進歩を続けています。



商圏に対応した生産拠点の整備

兵庫県小野市に建設中の関西工場・関西ハブセンターは2023年1月に稼働予定となっています。この施設の誕生により、関西の商圏への製品供給はそれまでの福山発から地元近畿発に代わり、多くのメリットが創出されます。最大のメリットは関西圏において製品を安定して供給する能力の増大です。また納品と同一地域からの生産・配送により、自然災害の多い昨今の非常事態時においても安定供給のリスク軽減になります。関西の巨大商圏に対応する生産・物流拠点の誕生を礎に、エフピコは今後も欠品ゼロを目指し、それを実践し続けていきます。



ロボット化のさらなる拡大

社会的な構造の変化による労働力不足に対応するとともに、作業の効率化を目的とした工場内でのロボット化を継続して行っています。現在では製品の裁断、整列、ポリ袋への包装、ケース詰め、ケースの計量、ケースの移動、ケースのパレット載せという一連の作業のほとんどはロボットによるものです。現在、ロール素材の取り付けのロボット化も進行中ですが、さらに自動化できる作業項目の検討と導入を計画しています。



障がいのある人材の活躍

障がいのある人材による製品の製造をエフピコが始めたのは1986年のこと。製造分野では発泡トレー、透明容器、さらに写真のような折箱容器を担当しています。食品トレー・容器メーカーとしてお客様に提供する品揃えの面から、障がいのある人材は小ロットの受注や手作業による製造が必要となる高付加価値の容器の組立てを担当する欠かせない人材となっています。



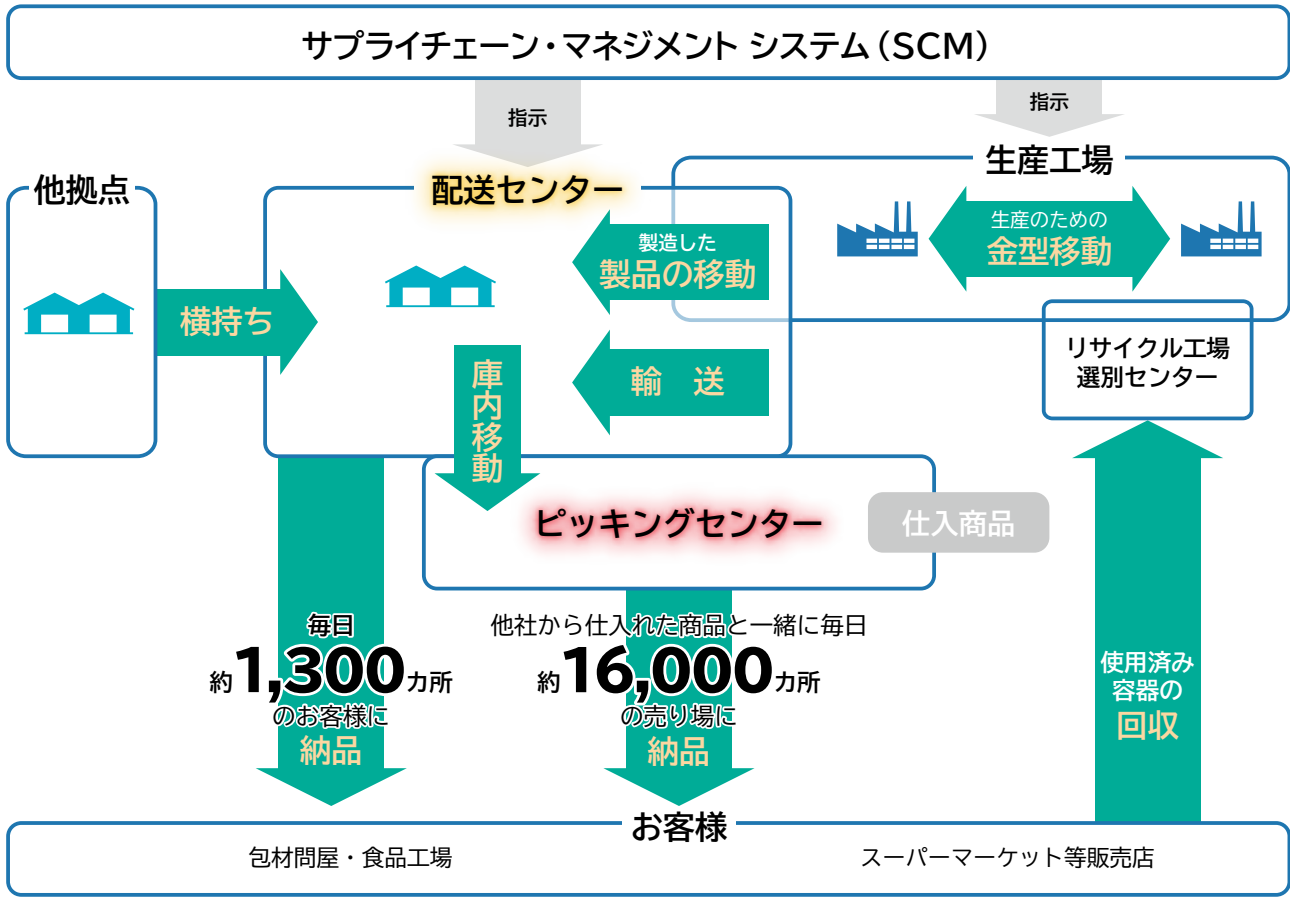
物流 LOGISTICS



エフピコの物流事業の最大の特徴は、自社で事業を展開していることです。自らが製造した製品を自らの方法で運ぶ。この自由度の高さが様々なメリットを生み出し、価値創造に大きく寄与しています。

エフピコのバリューチェーンを可能にする自社物流

SCMが立案した計画に沿って回るエフピコのバリューチェーンのなかで、製品や商品を始めた様々なモノの移動に関する業務を担っているのが物流部門です。業務の内容は配送管理、在庫管理、倉庫の入出庫業務、そして問屋機能としてのピッキング。これらの物流活動を計画に組み込むことができるのは、エフピコが自社物流システムを展開しているからにほかなりません。お客様からの注文をスタート地点として生産から納品まで、さらに使用済み容器を回収して再び生産工場へと戻すまで、複雑なモノの動きに対してフレキシブルに対応しています。



物流という“サービス”の提供

エフピコが掲げているお客様への約束のひとつ「必要なときに確実にお届けする」を実行し続けるため、物流部門では様々な施策を行っています。施策の目的は主に作業の効率化、確実性の向上、スピードアップなどですが、これらは“物流はサービス業務”であるという考えに基づいています。ただモノを運ぶのではなく、お客様に“高い満足度を提供”することが大切と考えれば、自然と実施すべき施策が見えてきます。お客様に喜んでいただけるサービスを目指し、業務の改善は続きます。



- 1 最も効率的な配送計画を立てる「ルートプランナー」。
- 2 「リアルタイムバリヤーチェックシステム」はQRコードを使い配送開始から納品までをモニターします。
- 3 設定したコースを動く「無人搬送車」。人手不足対策に大きく寄与しています。
- 4 倉庫からトラックバースまでをコンベアで繋ぐ「ソーターシステム」。出荷時間を大きく短縮しています。
- 5 定期的に開催の「物流改善発表会」の発表者。2021年度は15チームが改善策を発表しました。
- 6 ハンズフリーでの作業を可能とし、作業の正確性と効率性を大きく高める「音声ピッキング」。ミスは100万分の3という精度。
- 7 使用済み容器を回収するトラック。配送後の復路を活用しています。

配送センター

- 北海道配送センター(北海道石狩市)
- 東北配送センター(山形県寒河江市)
- 関東ハブセンター(茨城県八千代町)
- 八王子配送センター(東京都八王子市)
- 東海配送センター(静岡県長泉町)
- 中部ハブセンター(岐阜県輪之内町)
- 関西配送センター(兵庫県神戸市)
- 福山ハブセンター(広島県福山市)
- 九州配送センター(佐賀県吉野ヶ里町)

ピッキングセンター

- 北海道ピッキングセンター(北海道石狩市)
- 東北ピッキングセンター(宮城県大衡村)
- 関東ピッキングセンター(茨城県八千代町)
- 茨城ピッキングセンター(茨城県八千代町)
- 八王子ピッキングセンター(東京都八王子市)
- 新潟ピッキングセンター(新潟県長岡市)
- 中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)
- 関西ピッキングセンター(兵庫県神戸市)
- 福山ピッキングセンター(広島県福山市)
- 九州ピッキングセンター(佐賀県吉野ヶ里町)

関西新拠点
(兵庫県小野市)
2023年1月稼働予定



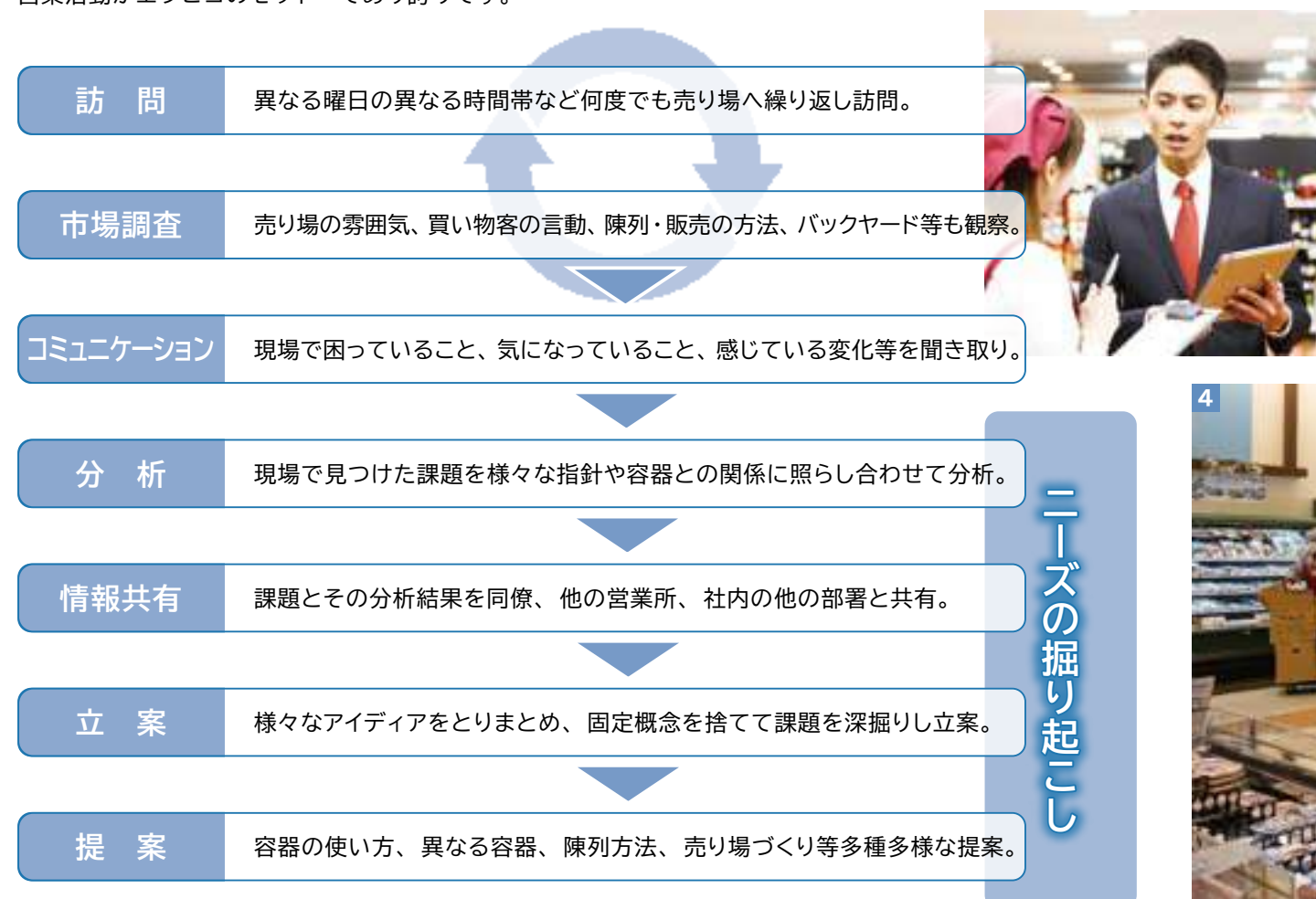
販売 SALES



エフピコ製品に詰められたたくさんの機能という付加価値は全て、容器を使う方々のニーズから生まれています。エフピコはひとつの容器に詰められたたくさんの価値を販売しています。

お客様のニーズを掘り起こす提案型営業

エフピコが高付加価値の食品容器を販売し続けているのは、付加価値(結果)を生み出すニーズ(原因)を掘り起こし続けているからです。現場に何度も足を運んでお客様の“困った”を聞き逃さず、“あったらいいな”を真剣に受け止め、社会の流れにも敏感に反応してニーズに応える提案をすることを第一に考えています。さらに、エフピコのトレー・容器が持つ機能を活用して利便性を高めたり、環境保全への関与を深めたりなどの提案も行っています。提案型の営業活動がエフピコのモットーであり誇りです。



ECサイトやSNS活用による営業活動



コロナウイルス感染症による影響で新たにテイクアウトやデリバリーを始める飲食店が大幅に増えました。飲食店の方々がクリックひとつで購入できるウェブ通販サイト「PACK MARKET」を充実させています。スマホアプリの提供により、プッシュ機能で新着情報を受け取れるなどの機能も付加しています。また、Instagram、LINE、YouTubeによる情報発信も行っており、今後さらに発展させていく予定です。

エフピコ公式アカウント・チャンネル



Instagram



LINE



YouTube

- 1 一連の営業活動を経てお客様に提示する売り場づくりの提案例。
- 2 営業部門の「業務カイゼン活動発表会」。業務の改善が営業活動のレベルアップにも繋がります。
- 3 「エフピコフェア」もお客様とのコミュニケーションを深める貴重な場。
- 4 エフピコの営業スタッフが同っている金沢市内のスーパーの店内。答えは全て売場にあります。
- 5 スーパーマーケットの作業場の効率化も容器の力で推進します。



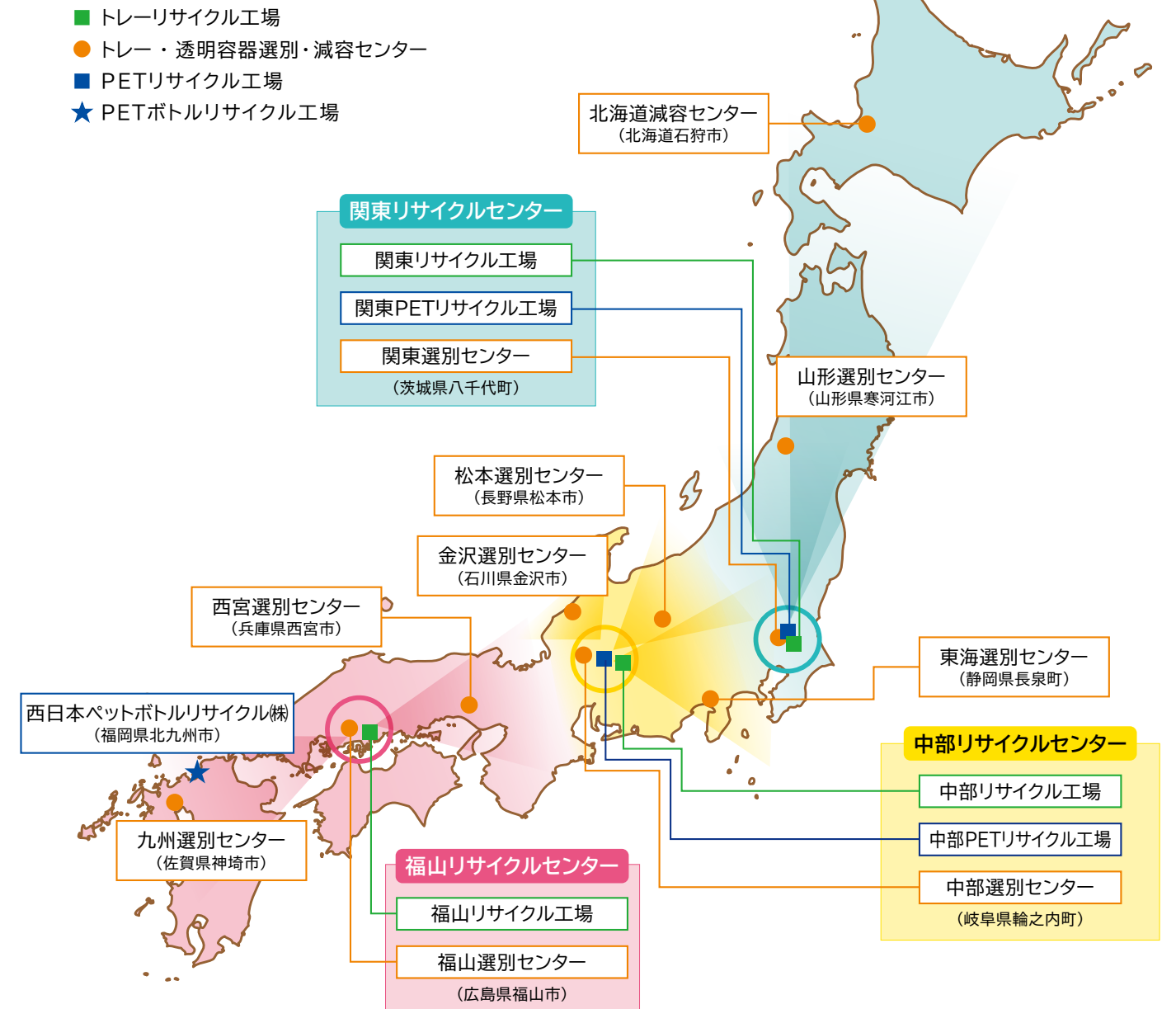
リサイクル RECYCLING



バリューチェーンを循環型へと完成させるリサイクル工程は全国規模で展開されています。スーパーマーケットなどで回収された使用済みトレイ・容器はまず最初に選別センターや減容センターへと運び込まれ、不適品選別や色・素材選別などの下準備が行われます。その後はリサイクル工場へ移され、ペレット・フレークという原材料となり、そのまま同じ敷地内の生産ラインへと進みます。本レポート冒頭の会社概要でもご紹介した関東、中部、福山の大型拠点にはリサイクルセンターが含まれており、バリューチェーンの全7工程のうちリサイクル、調達、製造、物流の4工程が効率的に展開されています。兵庫県小野市に誕生する新たな拠点にも選別センターを計画しており、リサイクル事業のさらなる拡大を目指しています。



エフピコの“ものづくり”



透明容器の選別ラインにA I・ロボットを導入

2022年2月より福山選別センターの透明容器のラインにAIとロボットを組み合わせた装置を導入しました。ベルトコンベアに乗って通過する使用済み透明容器の適品・不適品を判別し(写真左下のモニター内)、ロボットアームがそれらを選別します。この装置の導入により生産性の向上が見込まれ、今後ますます増えていくことが予想される容器リサイクルの需要に応えることが期待されています。



製品に高付加価値を与える エフピコの“ものづくり”

ものづくり 座談会

一言に“ものづくり”と言っても数千種類の製品を全国規模で生産しているため、具体的なイメージがしにくいかも知れません。実際のところエフピコのものづくりは複数の部門が関わり、工程は複雑に絡み合って進行しています。そんなエフピコのものづくりを、雑談を交えて当事者視点から分かり易く説明してもらう機会を設けました。



(株)エフピコ笠岡
笠岡第二工場
サブマネージャー
平部 貴之



SCM部SCM 2課
チーフマネージャー
今川 博文



製品開発部デザイン課
チーフマネージャー
柳田 和志



生産本部
統括工場長
浅野 貴司

柳田：初めて生産するモノの場合は、製品開発部や品質管理部が立ち会っています。2度目以降のモノは、既に生産した工場から製造過程の状況に関する情報をもらっています。どこが上手くいかなかったとかですね。

平部：欠品ゼロにはもちろん生産工場の現場でのフレキシブルな対応も大切です。生産スケジュールを守るために工場の工程担当者がSCMに工法の進言をすることもあります。

平部：とは言っても、ものづくりにはトラブルも付きものです。工場でのトラブルで納期を遅らせるということはありませんが、改善のために製品開発部によく電話をしますね。製造がうまくいかないことの主な理由は素材の選定だったり、金型だったり、それは製品開発部と連携をとって改善します。ものづくりは、やはりやってみないと分からない部分がありますから。

今川：AIは出荷実績と計画の比較検証で活躍しています。生産計画がどれだけ正確だったかという。AIが生産計画の精度を高めることにより、欠品ゼロも継続できるわけです。欠品ゼロは我々のトッププライオリティであり、誇りでもあります。

浅野：トラブルではありませんが、今一番苦労しているのは人員の確保です。瞬間的な人手不足ですね。関西の拠点もできますし、コロナで濃厚接触者が出たとか。新入社員も多く入るようなので、頑張って教育します。生産の現場ではやはり、ものづくりはひとつづくりに尽きますね。

柳田：製品開発は上市に向けてどんな素材を使い、何を用意して、どんな方法でつくるかなどの計画を含め、関連する全ての情報をSCMに伝えるという役割です。その意味では、形となったモノをつくるバリューチェーンの最初の工程ですね。

浅野：SCMは約30人のスタッフで頑張っていますよ。AIもあるし。

今川：大規模な生産工場が全国に19もあるから連絡調整は大変ですよ。

今川：計画が決まるとSCMはエフピコのものづくりの司令塔として、スケジューラーというソフトを使い、常に2週先の計画を各生産工場に伝えます。SCMに長年蓄積されたデータに基づいて生産の発注をするので、生産の現場から変更などの要望を出されることはほとんどありません。

浅野：それでも急な出荷が重なったり、ものすごい繁忙期などには生産工場からSCMに電話を入れて調整をお願いすることもあります。密に連絡を取り合っています。

平部：基本は納品から2週間前の生産指示ですが、たまに5日でやって欲しいなどということも。

今川：SCMの立場としてのものづくりは、効率化ですね。安定供給を確保しつつ、いかにして無駄なく生産を続けていくかということです。AIを活用して販売予測の精度を上げることを頑張っていますが、うまくいった時はやはり嬉しいものです。

浅野：生産が効率的に回ってれば、誰も無理をすることなく、倉庫に過剰な在庫を抱えることなく、みんながハッピーなんです。



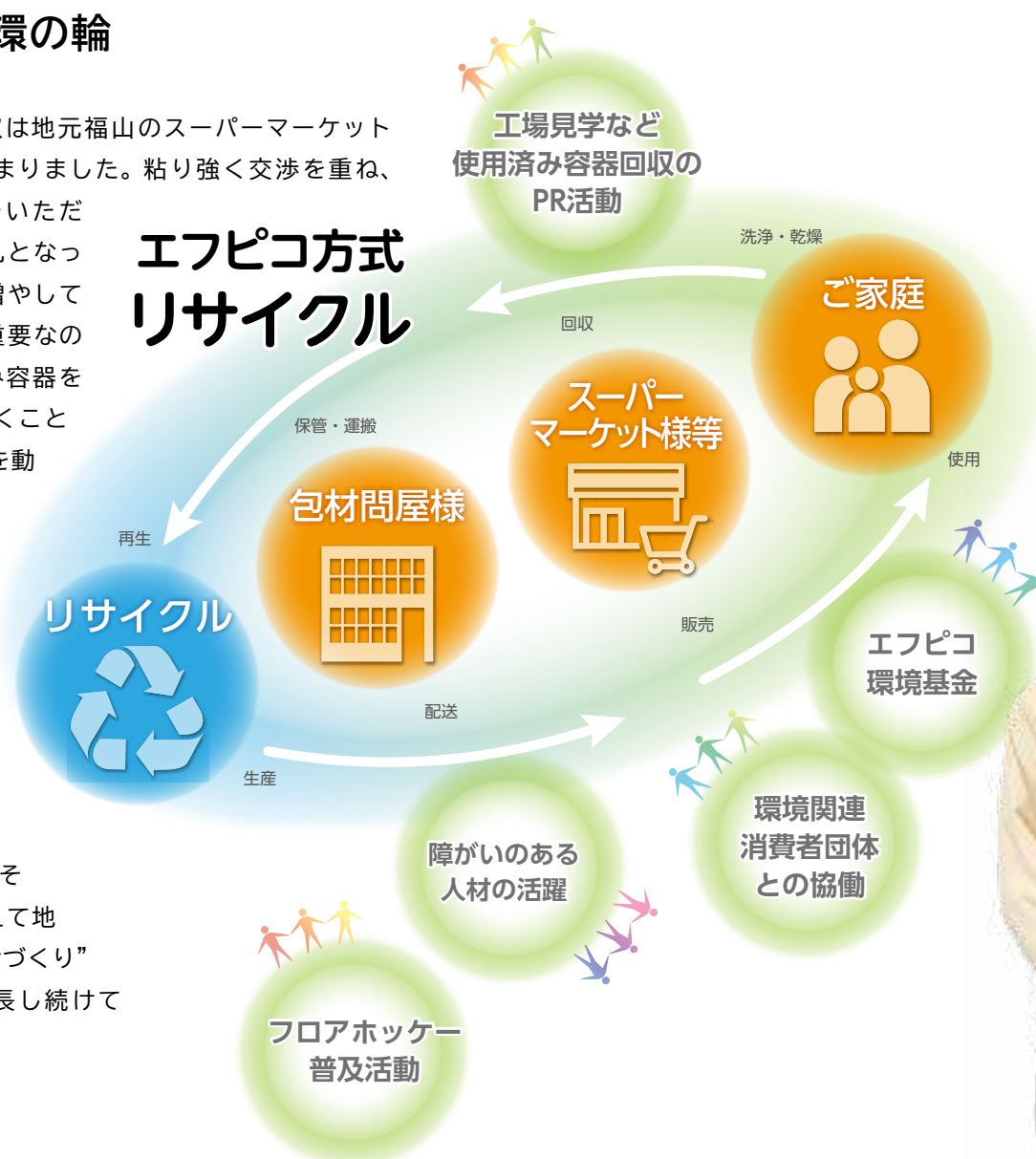
サステナブルな社会を目指した エフピコの“人の輪づくり”

1990年に開始した使用済みトレイ・容器の回収というエコ活動のスタート以来、社外のステークホルダーの方々と関わっていく機会が増えました。それをきっかけに社会の中におけるエフピコの“人の輪づくり”が始まりました。



地上資源循環の輪

使用済みトレイ・容器の回収は地元福山のスーパーマーケット様への協力をお願いから始まりました。粘り強く交渉を重ね、最初の店舗で協力の了承をいただいた後は、営業スタッフ一丸となって協力店舗・包材問屋様を増やしていきました。最も大変かつ重要なのは、消費者の皆様へ使用済み容器を店頭まで持ってきていただくことです。“真摯な思いは人の心を動かす”という信念の下、リサイクル工場や選別センターをオープンして多くの方にご見学いただくこと等を通じてリサイクルへのご理解をいただきました。リサイクルの輪は全国へと広がり、今では約10,000カ所の回収拠点があります。そして現在はリサイクルを超えて地球環境保全活動へと、“人の輪づくり”はこれからもどんどんと成長し続けていきます。



学習漫画『食品トレーのひみつ』を制作

環境に対するエフピコの取組みと想いを小学生に正しく理解していただきたいという考えから、「学研まんがでよくわかるシリーズ182」として『食品トレーのひみつ』と題した学習漫画を制作し、2022年5月に発行されました。制作過程では社員の家族である小学生にモニターとして原稿を読んでもらい、子供たちに分かり易い内容とすることを心掛けました。この漫画は全国の小学校や公立図書館約25,000カ所へ寄贈されます。エフピコ発の“人の輪”がさらに大きくなり、サステナブルな社会の発展に繋がることが期待されます。



日々、エフピコの“人の輪づくり”に地道な努力を続けるスタッフの座談会をP.41-42でご覧ください。

サステナブルな社会を目指した エフピコの“人の輪づくり”



4者一体によるリサイクルの仕組み

お店で回収された「使用済みトレー・容器」は
リサイクルされて、またお店で使われています。



“4者一体”という形容の言葉を付けているこのリサイクルのシステムは、文字通り4つの主体による協力がなければ実現しません。だからこそ、協力をしていただくエフピコ以外の3者の方々から理解を得て、心を同じ方向に向けるという地道な人の輪づくりはなにより重要だったのです。



① 消費者の皆様

買い物や食品保存の際、現在の食生活において食品トレー・容器は必要不可欠なものとなっています。この利便性を途絶えさせないため、消費者の皆様からの協力を仰ぐための様々なPR活動を行っています。

③ 包材問屋様

スーパーマーケット店舗で回収した使用済み容器をエフピコのリサイクル工場へと運ぶ役割を担っています。納品した帰り便を活用するなど、エフピコの自社物流と連携をとっています。

② スーパーマーケット様など

店舗内外への回収ボックスの設置、また回収した使用済み容器をバックヤードに集める作業でもご協力いただいています。さらに回収量アップのためのPR活動を店舗内で行うなどの積極的な施策も。

④ エフピコ

運び込まれた使用済み容器を原料として新しい製品(エコトレー、エコAPET、エコOPET)へと生まれ変わらせています。無駄なく、環境に負荷をかけず、食品の販売と購入をする両者に利便性を提供し続ける使命を果たしています。

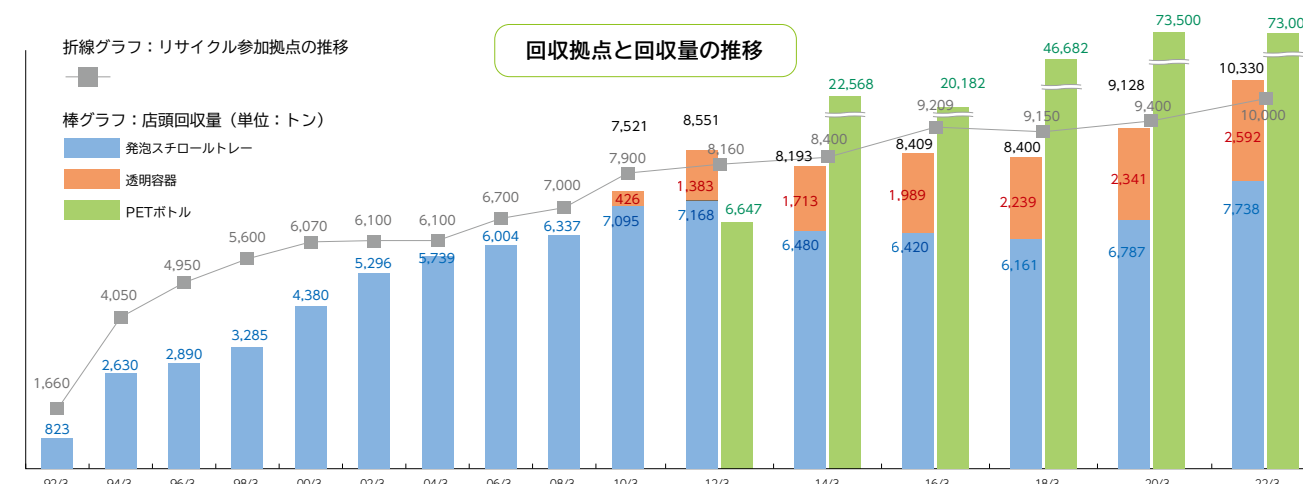
リサイクル事業の成長・発展

エフピコ方式リサイクルを成長・発展させていく上で一番の課題は回収する使用済みトレー・容器を増やすことです。ひとつにはご家庭での使用済み容器の回収量を増やすこと。ふたつ目は、回収する場所を増やすことです。そして、どちらの場合でも消費者の方々が買い物をするスーパーマーケット様などの販売店が大きな役割を果たします。店舗様によっては「リサイクルステーション」などの名前を用い、環境への意識を高くしていただく工夫も行っています。

スーパーマーケット様とはさらにもう一步踏み込んで、店内でのPR活動と一緒に取り組んでいるところもあります。店舗内の一角にブースを設置して、楽しんでリサイクルを学んでいただくミニ教室や展示を行っています。



また、エフピコがスーパーマーケット様に対して提案していることのひとつに、“エコ売り場の創出”があります。お客様が購入した商品に使われている食品トレー・容器を店舗にお持ちいただければ、それがリサイクルされて再び同じ売り場で使用されることを分かり易くアピールします。こうして食品売り場を環境保護活動の一環に参加できる“エコ売り場”と位置付けることで、使用済みトレー・容器の回収への意欲を高めるというものです。さらに、使用済みのペットボトルが透明容器になることもアピールしており、下のグラフの通り、回収拠点や回収量は着実に増えてきています。





サステナブルな社会を目指した エフピコの“人の輪づくり”



消費者・環境関連団体の方々と共に

エフピコはリサイクル事業をスタートさせた直後から各種消費者団体、環境保護団体の方々と対話に力を入れてきました。たくさんの貴重なご意見や要望をいただきながら、多くの方々と一緒にリサイクルの輪を広げていくことを目指しています。



工場見学と出前授業で開く“人の輪づくり”のドア

●リサイクル工場・選別センターの見学

リサイクルを通して環境保全活動を行っているエフピコのドアは常に開いています。2022年3月の時点でエフピコのリサイクル工場見学に来ていただいた方はのべ約49万人。消費者団体の方を筆頭に、学校、自治体、流通関係、マスメディア、またスーパーマーケット様がお店のお客様を対象に実施する見学ツアーなどの方々にもお越しいただいています。



●オンライン工場見学

コロナ禍における工場見学実施の制約、また普段より遠隔地にお住まいの方々からの要望もあり、2021年度の“夏休み親子見学ツアー”はオンラインで開催しました。チャット機能でコミュニケーションを取るなどしながら、通常の工場見学と変わらない内容を行うことができました。今後も社会の状況などを鑑み、新しい形の工場見学を模索してまいります。



●出前授業

主に小学校を対象にエフピコの社員が学校に出向いてリサイクルや環境に関する授業を行っています。リサイクル工場に来ることが難しい児童・生徒さんたちと直接コミュニケーションを取ることができ、先生方からも有意義なプログラムと好評です。



3年目の「エフピコ環境基金」

2020年に設立した「エフピコ環境基金」での活動助成も3年目を迎えました。助成活動について社員に周知し、それぞれの活動に社員の参加を促していることもこの基金の特徴です。一緒にフィールドに出て団体メンバーの方々の目線で活動を行うことにより、地域社会との協働を進めています。

●2022年度(3年目)の助成団体と活動内容

団体名	所在地	活動内容
特定非営利活動法人 湘南クリーンエイドフォーラム	神奈川県	神奈川のビーチクリーン活動をワンボイス化プロジェクト
特定非営利活動法人 チャウス	群馬県	わたらせ川の環境保全・保護活動
特定非営利活動法人 宮島ネットワーク	広島県	宮島と周辺の海洋環境の維持と生態系の保全
認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト	滋賀県	琵琶湖におけるマイクロプラスチックの調査と子供たちの環境教育の推進
特定非営利活動法人 こが里山を守る会	茨城県	里山保全整備活動・市民子ども参加の里山体験活動
瀬戸内海宇治島クラブ	広島県	宇治島サニーアイランド・クリーン作戦
特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	河川/海洋ごみ問題マルチステークホルダー実地研修
特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所	石川県	ゴミゼロ河北潟の実現にむけたゴミ拾い、調査、啓発活動
NPO法人 SoELa	神奈川県	地球環境カードゲームマイアース地域版による子供向け環境教育プロジェクト
一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会	三重県	ESDによる次世代育成活動と地域の環境課題・保全活動を映像記録したSDGs教材づくり
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)	宮城県	SDGs教育プロジェクト〜持続可能な社会の創り手を育てる新たな防災・気候変動環境学習の創造と支援〜
特定非営利活動法人フードバンクさが	佐賀県	食と農で人と人をつなぐ、実践型食育・農業事業
認定特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊	神奈川県	海ごみ削減「急務マイクロプラスチックになる前に回収」活動2022
特定非営利活動法人 とす市民活動ネットワーク	佐賀県	緑豊かな森林を守るための次世代・消費者への木育推進事業

●1～2年目の活動記録



サステナブルな社会を目指した エフピコの“人の輪づくり”

障がいのある 人材の活用と フロアホッケー 活動

障がいのある人材の活躍

障がいのある人材の雇用は1986年にスタートしました。36年を経て障がいのある人材の雇用は障がいのある人材を主力とするエフピコダックス(株)とエフピコ愛パック(株)のみならず、エフピコグループの中で広がっています。

1986 発泡トレー製造で障がいのある人材の雇用を開始

- ▶ 1986年1月 ㈱ダックス設立(現・エフピコダックス㈱千葉工場)
知的障がいのある人が働いて生きていくことを実現したい、という知的障がいの
子を持つ親の会『あひるの会』とのつながりで、エフピコの障がいのある人材の
雇用が始まりました。



1995 透明容器製造にも拡大

- ▶ 1995年4月 ㈱ダックス四国(現エフピコダックス㈱高知工場)
- ▶ 2006年4月 ㈱ダックス佐賀(現エフピコダックス㈱佐賀工場)



2006 折箱タイプ容器製造で営利法人初の 就労継続支援A型事業を開始

- ▶ 2006年10月 広島愛パック㈱(2009年エフピコ愛パック㈱と統合)
- ▶ 2007年3月 エフピコ愛パック㈱設立
(2007年～2009年に全国で7工場開設)



2008 リサイクルの回収トレー選別へと拡大

- ▶ 2008年～2010年 エフピコ愛パック㈱の事業所として
全国に6選別センター開設
- ▶ 2009年8月 ㈱茨城ビジョンリサイクル設立
(現エフピコダックス㈱茨城選別工場)

2017 全国規模の特例子会社に再編

- ▶ 2017年1月 エフピコダックス㈱設立(特例子会社4社合併)

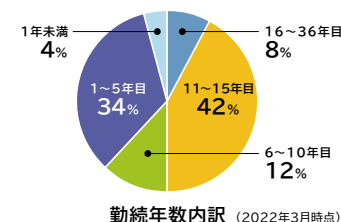
2019 活躍の場の拡大

- ▶ 2019年8月 エフピコ愛パック㈱からエフピコダックス㈱へ移籍
- ▶ 2021年4月 エフピコダックス㈱からエフピコ北海道工場へ移籍
- ▶ 2021年9月 エフピコ愛パック㈱から九州ピッキングセンターへ移籍
- ▶ 2021年10月 エフピコ愛パック㈱からエフピコダックス㈱へ移籍

エフピコグループ 2022年3月時点

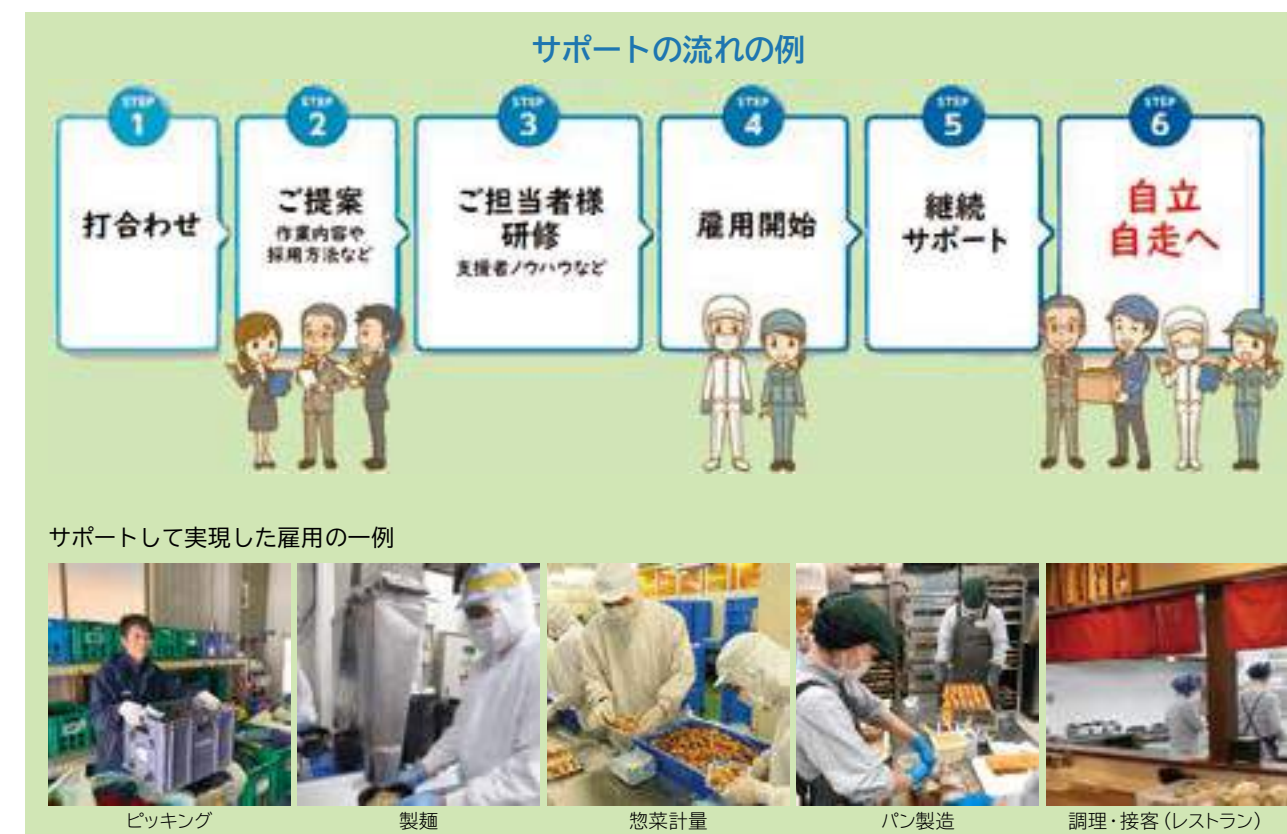
障がいのある社員数	365名
身体障がい	36名(うち重度15名)
内訳	知的障がい 322名(うち重度 ^(注1) 244名)
	精神障がい 7名
雇用率換算数 ^(注2)	621.5名
障がい者雇用率	12.6%

(注1) 職業判定上の重度を含む
(注2) 重度障がいのある人を2、短時間労働者を0.5と換算した人数



お取引様への障がいのある人材の雇用サポート

エフピコにおける障がいのある人材のノウハウをもとに、お取引様の障がい者雇用のサポートを行っています。2022年1月の時点で、これにより50事業所751名の障がい者雇用が新たに生まれました。就労した人材はそれぞれの職場で欠かせない戦力となっています。



フロアホッケー活動

フロアホッケーは障がいの有無、年齢、性別などに関係なく誰もが楽しめるユニバーサルスポーツであり、心のバリアフリーを体験・体感できる大きな魅力を持つスポーツです。エフピコでは全国9つのエリアで600名(障がいのある社員約200名、障がいのない社員約400名)がフロアホッケー活動をしています。さらに、その魅力を広くアピールするため、全国大会や西日本大会のスポンサー、運営スタッフ・審判としての協力なども行い、心のバリアフリー化を推進しています。



人の輪づくり 座談会

環境保全と社会福祉をサポートする エフピコの“人の輪づくり”

“人の輪づくり”は日々の積み重ねで自然と生まれてくるもの。人間関係は「こうしよう」「こうしたい」と思っても、思い通りにはいかないものです。リサイクルと障がいのある人材が働く現場で日々奮闘している4人の方に集まっていただき、人の輪づくりへの思いと喜びのある日常について語ってもらいました。



環境対策室
福満 慶子



環境対策室
内海 由美子



エフピコ愛パック(株)
福山選別センター
園田 順子



エフピコダックス(株)
福山工場
篠原 幸雄

福満：リサイクル工場のある関東、中部、福山周辺の小学校に年数回、リサイクル工場見学と出前授業の案内をお送りしています。工場見学に来た子供たちは皆一様に、集められたたくさんの使用済みトレイなど興味津々で見えていますね。

内海：自治体や国会議員、地方議員の方も見学にいらっしゃいますけど、リサイクルの規模にとても感心して「今後リサイクル活動を広めます！」と熱く語ってくださる方も少なくありません。頼もしいなと感じます。

篠原：リサイクル工場の見学コースは障がいのある社員が働く選別センターも含まれていますし、選別センターのみの見学もあります。ほとんどの見学者は、「選別する手の動きが早い」と感心していらっしゃいます。

福満：リサイクル工場の見学に来るのは小学生が一番多いんです。みんなで集めた使用済みトレイをお辞儀とともに渡されたことがありました。授与式みたいで微笑ましかったです。頑張った集めたものだからと、大切に渡したかったという思いをしっかりと受けとめました。

内海：毎年「ばら祭り」に出店していますが、地元福山の方でもエフピコのことを“リサイクルの会社”と知っている方がいらっしゃるんですよ。

福満：出前授業をきっかけに、生徒が自発的に使用済みトレイの回収を始めるという例がありました。とっても嬉しいですね。校長先生に掛け合って回収活動を始め、不適品や白とカラーの選別も自分たちでやってくれているところもあります。子供たちの行動力には驚かされます！

篠原：お得意先様の障がい者雇用のサポートをする過程で1週間程度その会社の方を研修として受け入れるのですが、研修の後にも相談に来られたりしている話をします。その方がさらに、他の会社に障がい者雇用を勧めているという話も聞きました。着実に人の輪が広がっているなど実感しています。

園田：私自身ここで働き始めるまでは障がいのある人たちと接することはありませんでした。周りの人たちは「大変じゃないの？」と言っていましたけど、一緒に働いてみるとみんな私のことを受け入れてくれて特別な職場という意識はありません。こういう職場のことをたくさんの人に知って欲しいと思います。

園田：愛パック(就労継続支援)で働いている障がいのある社員が能力を高めていって一般の会社へとステップアップした事例があります。それはとっても嬉しいです。どんどんと新しい環境に出て行って活躍して欲しいですね。

園田：毎年、地元福山の特別支援学校の生徒さんが3日間体験勤務に来られます。今年も一人入社ということになりました。働くことで人生を豊かなものにして欲しいです。

内海：緊急事態宣言時などで工場見学が難しくなった時は出前授業に切り替えたり、オンライン工場見学にしたりと工夫しながらやってきました。環境教育はやはり継続してやっていないといけなないので。



エフピコが実践するESGは国連が提唱するSDGsとも密接に関係しています。事業を継続して推進することが、社会活動に参画し、住みやすく生きがいのある社会の創造をお手伝いすることでもあるという意識をエフピコは持ち続けたいと思っています。



	目指す姿	エフピコグループの重要課題 (マテリアリティ)	取り組み	関連するSDGs
ものづくり 食品トレー・容器メーカーとして	持続可能な社会の構築	◎CO ₂ 排出削減	○太陽光発電設備の導入 ○再生原料を使用したエコ製品の拡大	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任
		◎プラスチックごみ問題の解決	○リサイクルボックスによる使用済み製品の回収 ○環境基金を通じた活動	13 気候変動に 具体的な対策を 14 海の豊かさを 守ろう 15 陸の豊かさも 守ろう
	安心・安全で 豊かな食生活の創造	◎新たな価値を提供する製品開発	○価値創造提案 ○新素材の研究開発 ○製品のプラスチック使用量削減 ○食品ロスの削減	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任
人の輪づくり 社会の一員として	「必要なときに確実にお届けする」 インフラの確立	◎製商品の安定供給	○サプライチェーン・マネジメント(SCM) ○全国各地の生産・物流ネットワーク構築 ○災害対策(非常用自家発電設備と燃料備蓄、防波堤設置)	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 13 気候変動に 具体的な対策を
	経営基盤の強化	◎従業員の幸福度向上 ◎インクルージョンの推進 ◎コーポレートガバナンス	○ディーセントワーク(健康・安全で働きがいのある仕事)の推進 ○障がい者雇用などダイバーシティ経営 ○人材マネジメント(人事制度、各種研修プログラムの充実) ○業務全般におけるDX推進	5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も 10 人や国の不平等 をなくそう 16 平和と公正を すべての人に
	地域社会との共生	◎コミュニティへの参画	○リサイクル工場見学や出前授業の実施 ○環境基金を通じた地域社会と一体で進める環境活動 ○子ども食堂への容器寄贈	17 パートナリシップで 目標を達成しよう

持続可能な社会の構築

●気候変動への対応

2022年3月、エフピコグループは気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言への賛同を表明しました。今後、サプライチェーン全体でのCO₂排出削減が一層求められることを重要な経営課題と認識し、TCFD提言の枠組みを通じて、①気候変動に関するリスクやシナリオを想定し、大きく環境が変化する中でも何も起こらない強靱なガバナンス体制を運用すること、②顧客ニーズを迅速にとらえ、事業の持続的成長のための機会として活かすことの両面において、グループ一丸となって取り組んでいきます。

①ガバナンス：取締役会による監視体制と経営者の役割

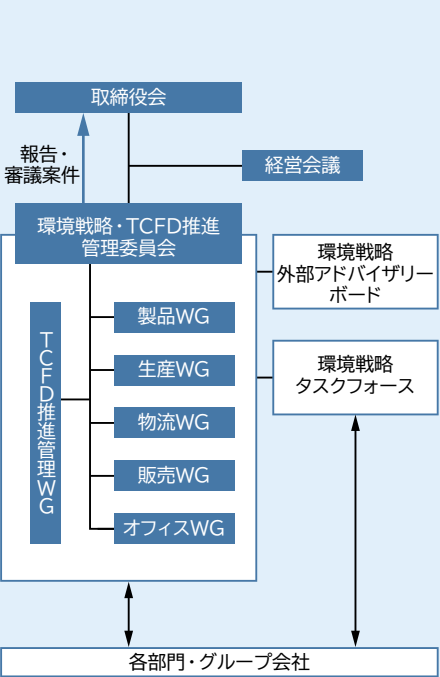
当社グループは、以下のプロセスを通じて、気候関連のリスク及び機会の評価・管理、気候関連の方針・戦略・取り組み(エフピコ・エコアクション2.0)について取締役会による監視体制を構築しております。

- 1)「環境戦略・TCFD推進管理委員会」が、グループ全体の環境戦略やTCFD推進について議論し、方針・戦略を立案。「環境戦略・TCFD推進管理委員会」の運営は、社長直轄の環境に関する専門組織である環境対策室が事務局を担う。

2)グループ全体の環境戦略のもと、製品・生産・物流・販売・オフィスの各部門に設置したWG(ワーキンググループ)が自主目標を立て、環境課題の解決に向けた取り組みを実施。
- 3)各WGは、四半期に一度、取り組みの進捗状況を「環境戦略・TCFD推進管理委員会」に報告。

4)「環境戦略・TCFD推進管理委員会」は、方針・戦略及び取り組みの進捗状況について、毎年取締役会へ報告。

5)取締役会は「環境戦略・TCFD推進管理委員会」からの報告を受け、様々な視点・知見をふまえモニタリングを行う。



(各組織体の役割)		
組織	役割	構成メンバー
取締役会	環境マネジメントシステム「エフピコ・エコアクション2.0」のモニタリングを行う	取締役
経営会議	環境に関する企業戦略や事業展開について議論し、方針と様々な事業戦略の整合を確認し、報告する	取締役、執行役員 およびグループ会社社長
環境戦略・TCFD推進管理委員会	グループ会社全体の環境戦略やTCFD推進に関して議論し、方針・戦略を立案する	委員長：代表取締役社長 副委員長：経営企画室管理取締役、環境対策室管理取締役 委員：各本部本部長
TCFD推進管理WG	各個別WGのTCFD推進戦略方針について議論する	経営企画室管理取締役、 環境対策室管理取締役 経営企画室、環境対策室
製品WG	LCAを用いた製品ごとの環境負荷の算定を行う	生産本部長、製品開発部
生産WG	生産工場での環境負荷低減を図る	生産本部長、生産管理部
物流WG	すべての物流活動における環境負荷低減を図る	エフピコ物流・エアロジック社長、 管理本部
販売WG	エコ製品の販売拡大とリサイクルの推進を行う	営業本部長、営業企画部
オフィスWG	グループ会社全体のインフラ整備によりエネルギーの効率化を図る	総務人事本部長、総務人事本部
環境戦略外部アドバイザリーボード	環境戦略について外部の視点から助言を行う	社外取締役、外部有識者など
環境戦略タスクフォース	環境に関して緊急性の高い問題の解決や企画の開発などについて一時的に構成し、対応する	関係各本部長、関係各部署

②戦略：リスクと機会

(移行リスクと関連する機会まとめ) 短期：1年以内、中期：1年～5年、長期：5年以上

分類	項目	リスク発生時期	想定される事業インパクト	
			リスク	機会
政策／規制	炭素価格、各国の炭素排出目標・政策	中期	●炭素税の導入により、原材料コスト・製造コスト、物流コストが増加する ●CO ₂ 削減目標の達成のために、再エネへの変換が求められ、設備・グリーン電力購入等の対応コストが増加する	●CO ₂ 排出削減に貢献するエコ製品の需要が増加し、販売機会が広がる可能性がある
	プラスチック規制	長期	●バージンプラスチックを使用した容器包装に対する課税、代替材料の使用等による支出が増加する	●再生原料を使用したエコ製品及びプラスチック使用量を削減した製品の販売機会が増加する可能性がある
業界／市場	重要製品／商品価格の増減	中期	●化石燃料の価格高騰により、製品の原材料コストが増加する ●石化由来からの代替原材料への転換に伴うコストが発生する	●再生原料を使用したエコ製品及びプラスチック使用量を削減した製品の販売機会が増加する可能性がある
	顧客・消費者行動の変化	中期	●よりサステナブルな製品が競争優位となり、既存製品が不買運動に遭う可能性があり、売上が減少する	●サプライチェーン全体で脱炭素を目指す機運の高まりにより、ライフサイクル全体でCO ₂ 排出削減に貢献するエコ製品の販売機会が増加する可能性がある
技術	再エネ・省エネ技術の普及	長期	●再エネへの移行が進み、再エネ設備の追加導入コストが発生する	●省エネ・再エネに資する技術の補助金政策が導入された場合、設備投資・研究開発費が低減できる
評判	顧客・投資家の評判変化	中期	●環境経営のための対応コストや開示・エンゲージメントコストが増加する	●環境対応を進めることで、低金利のグリーンファイナンスなどにより資金調達コストが低減する ●ESG投資の増加

(物理的リスクと関連する機会まとめ)

分類	項目	リスク発生時期	想定される事業インパクト	
			リスク	機会
慢性	降水・気象パターンの変化	中期	●降雨・強風の増大に伴うサプライチェーンの断絶、製品生産の遅延・停止による販売機会の損失が発生	●BCPへの取り組みにより顧客から高評価を得る可能性
	平均気温の上昇	中期	●夏の電力需要増加に伴い電力価格が高騰し、製造コストが増加する	●BCPへの取り組みにより顧客から高評価を得る可能性
急性	異常気象の激甚化	短期	●サプライチェーンの断絶、製品生産の遅延・停止による販売機会の損失が発生 ●拠点の資産価値が低下することにより、保険料が増加する可能性	●BCPへの取り組みにより顧客から高評価を得る可能性

③リスク管理：リスクの識別および評価プロセス

エフピコグループでは、「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」ことにより、食の安全・安心という社会的役割を果たし続けていくために、ビジネスモデルの持続可能性にとって重要なリスク及び機会の観点から、重要課題(マテリアリティ)を定めて、様々な取り組みを行っています。マテリアリティは環境戦略・TCFD推進管理委員会にて作成し、取締役会の承認を経て決定しています。気候関連のマテリアリティとして、「CO₂排出削減」が特定されています。

(全社的なリスク管理)

気候関連リスクを含む全社的なリスク管理については、取締役、執行役員やグループ会社の代表者が参加する経営会議(毎月)や情報交換会(毎週)を開催し、リスク発生の未然防止ならびにリスク管理に取り組む体制を構築しています。気候関連については、製品・生産・物流・販売・オフィスの各部門に設置したWG(ワーキンググループ)が主体的に様々な目標を立てCO₂排出量の削減に向けた取り組みを実施しており、環境戦略・TCFD推進管理委員会がこれらの進捗状況及び結果の報告を受け、評価を行っています。

(リスクサーバイの実施)

エフピコグループでは、大規模地震や大型台風、豪雨による水害など、自然災害による被害を最小限に抑止し、また火災や労働災害の発生を未然に防ぐことを目的に、工場、配送センターなど事業所ごとのリスクサーバイを定期的に行っています。リスクサーバイでは、外部の専門コンサルタントが直接事業所を訪問し、様々な事故の危険度について調査することで、リスクの洗い出し、リスクの分析・評価を行います。この内容を基に、事業所と協議の上、リスクの回避、軽減のための対処を行い、更に効果の検証を行うことで、マネジメントシステムの一環としています。

④指標と目標：リスクと機会の評価に用いる指標

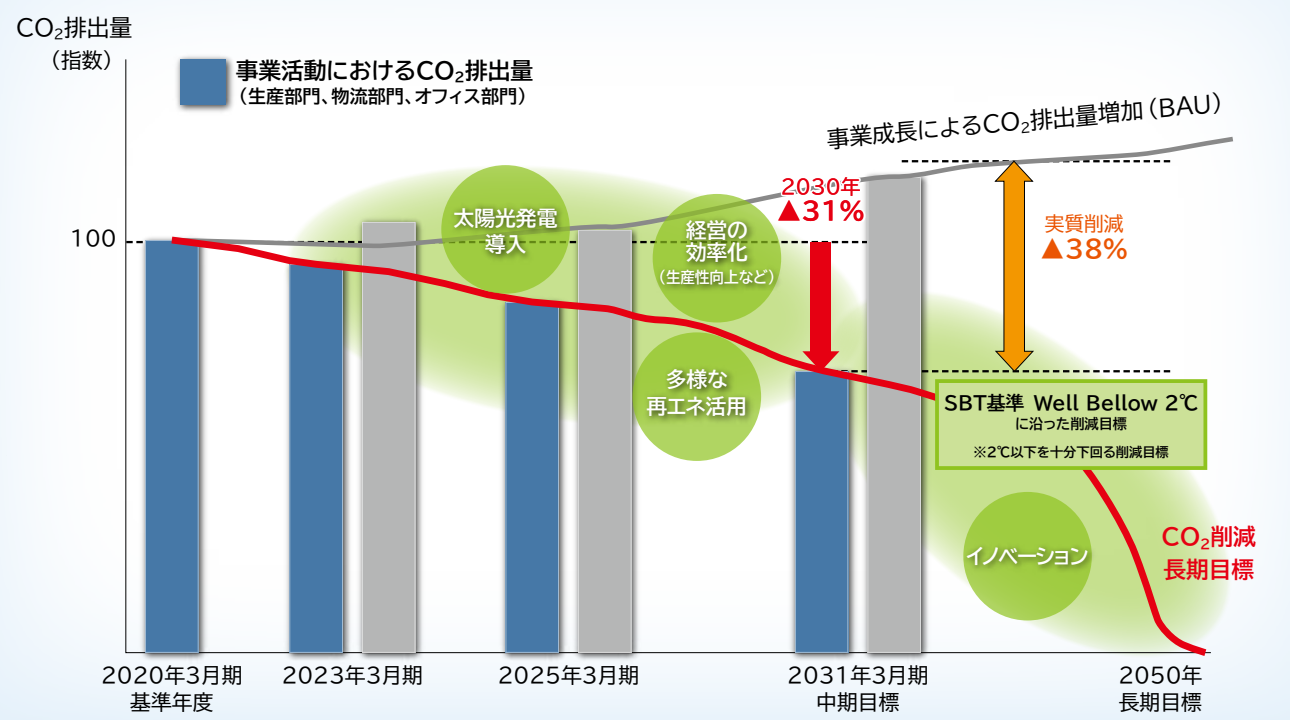
当社グループは、製品ライフサイクル全体を通じて様々なステークホルダーとともに環境負荷低減に取り組んでまいりました。昨今の地球温暖化による気候変動という社会課題に対し、当社グループが果たす責任とその役割として、脱炭素社会の実現に向けて新たな「脱炭素」の中・長期目標を策定しました。

新たな目標値として、【2031年3月期までにCO₂排出量(Scope1・2※)31%削減】及び【2050年度までにCO₂排出量(Scope1・2)の実質ゼロ】を目指します。

《エフピコグループ 中・長期環境目標》

- I. 事業活動全体におけるCO₂排出量(Scope1・2)を2031年3月期までに2020年3月期比31%削減します。
- II. エコ製品(エコトレ、エコAPET、エコOPET)によるCO₂排出削減量を2031年3月期までに27.2万tに増やします。(2020年3月期比170%増)
- III. 事業活動全体におけるCO₂排出量(Scope1・2)の実質ゼロを2050年度までに目指します。

温室効果ガス(Scope1・2)削減ロードマップ



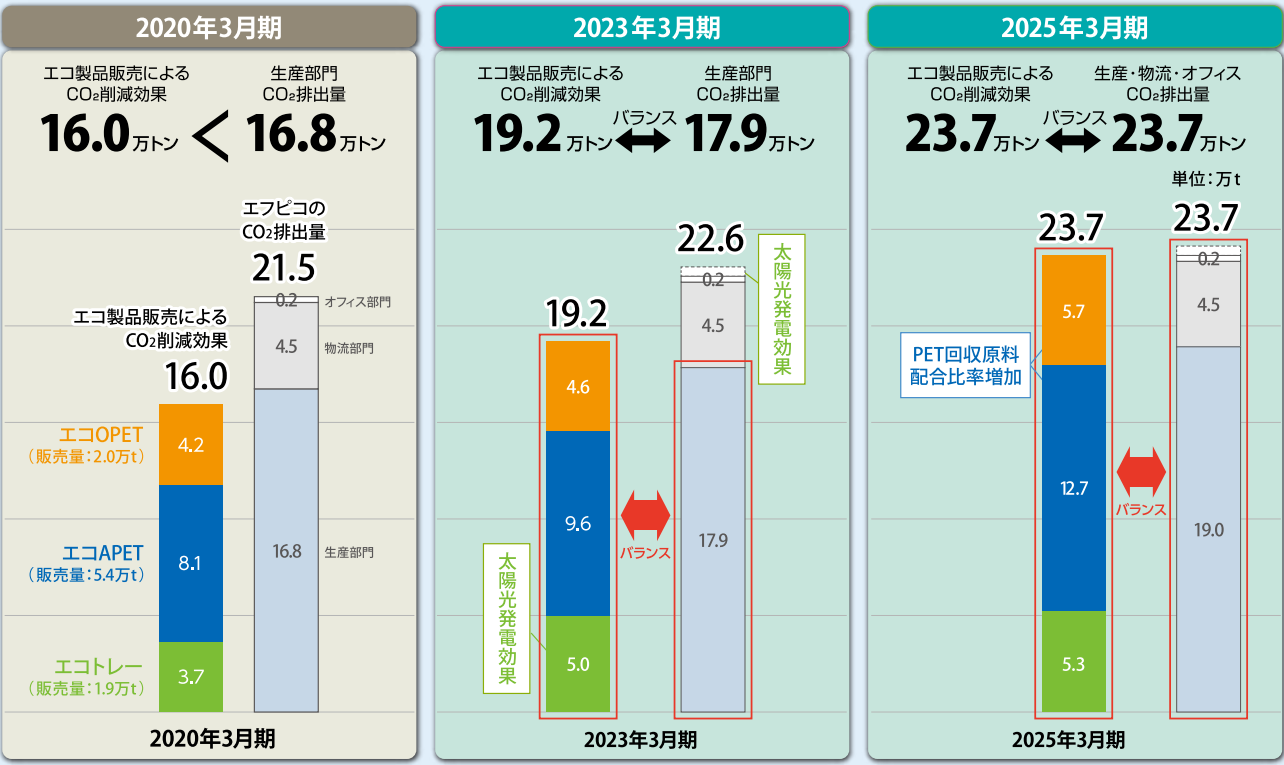
※Scope1は、事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。Scope2は、他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出。

●CO₂排出削減

関東、中部、関西の各拠点におけるリサイクル工場の電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目指します。



リサイクルでカーボンオフセット宣言。エフピコが展開するリサイクル事業によりバージン素材の使用が削減された分、CO₂の排出量も削減されています。2021年度では約17万トンのCO₂削減を達成しました。



●プラスチックごみ問題の解決

プラスチックごみに対する関心が世界的に高まっています。エフピコでは独自に「樹脂ペレット漏出防止対策」を進めていますが、業界団体を通じて「プラスチック海洋ごみ問題の解決に向けた宣言活動」に参画し、業界団体と連携した活動も推進していきます。また、エフピコのリサイクル事業は使用済み容器の回収により、プラスチックごみ流出の削減に大きく寄与しています。

2021年度に削減したCO ₂ の量: 約17万トン					
2022年3月期 (2021年度) 累計 (1990年~ 2022年3月)	発泡トレイ		透明容器		PETボトル
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量
	7,738t	19億3,450万枚	2,592t	2億5,920万枚	73,000t
	167,167t	417億9,175万枚	23,918t	23億9,180万枚	458,789t
					29億9,000万本
					177億1,732万本

※発泡トレイ: 4g/枚、透明容器: 10g/枚、PETボトル: 25g/本で計算(2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算)

安心・安全で豊かな食生活の創造

●価値創造提案

エフピコは高付加価値を持つ食品容器の製造、販売を行っています。この“高付加価値”は消費者の方々、スーパーマーケットなど食品販売者様、包材問屋様、そして地球環境を含む社会全般に対して提供するものです。エフピコは安全・安心で豊かな食生活を享受していただくための事業を続けています。



●新素材の研究開発

耐寒性に優れ、しかも軽くて丈夫。さらにプラスチック素材の使用量を少なくして環境に配慮した新素材の開発を行ってきましたが、今年度「i-タルク」と名付けた素材の製品シリーズを上市しました。冷凍商品をそのままレンジアップできる利点があるため、今後このシリーズの製品の需要が高まると予測しています。



●製品のプラスチック使用量削減

製品製造の原材料使用量を削減するため、生産工程の見直しに加えて薄肉化、軽量化などの取り組みを行っています。中期的な目標としては、2031年3月期までに製品1枚あたりの重量を2021年3月期比で1.5%削減としています。また、リサイクルした再生原料使用製品の割合を高める努力も続けています。



●食品ロスの削減

鮮度保持、小分け・個包装、輸送時の損傷軽減など、食品容器は食品ロスを削減するための機能を多数持ち合わせています。果物用の包装材「ふわりーと」(右の写真)は容器包装の高機能事例として、農林水産省のホームページで紹介されています。食品ロス削減に配慮した製品は継続して開発していきます。



「必要なときに確実にお届けする」インフラの確立

●サプライチェーン・マネジメントシステムによる計画生産・配送

本誌の中で繰り返し紹介しているサプライチェーン・マネジメント(SCM)による製品の計画的な生産と配送は、安定供給のソフト面での施策です。頭脳としてのSCMを中心に、全国に整備されたハード面での生産・物流・リサイクル施設が稼働し、エフピコの安定供給を揺るぎないものにしています。

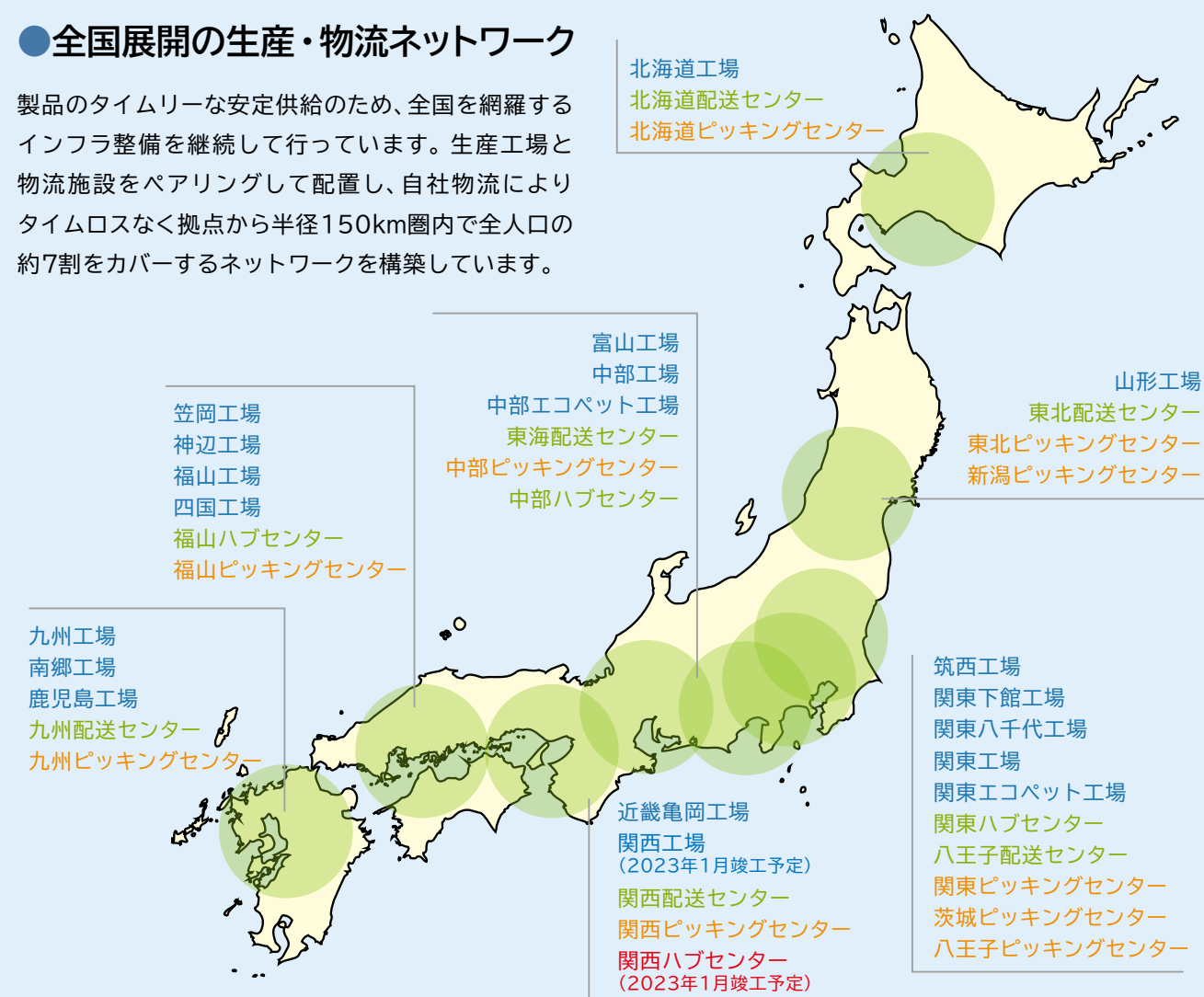
●災害等非常時への対策

非常用発電設備の設置、悪天候時の対応施策、災害を想定した訓練の実施、各事業所における災害時優先電話の設置、社員の安否確認システムの導入などを行っています。また、事業所ごとのリスクサーバイも定期的に行っています。



●全国展開の生産・物流ネットワーク

製品のタイムリーな安定供給のため、全国を網羅するインフラ整備を継続して行っています。生産工場と物流施設をベアリングして配置し、自社物流によりタイムロスなく拠点から半径150km圏内で全人口の約7割をカバーするネットワークを構築しています。



経営基盤の強化

●従業員の幸福度向上

産休・育休制度の充実、5棟目を建設中の単身者用社宅「ピコハウス」、在籍10年以上の社員を対象としたハワイ研修、各種レクリエーション活動への補助金の提供、保健師による健康相談や指導、各種レクリエーション施設への割引利用など様々なプログラムを展開・整備しています。2022年3月には健康経営優良法人(大規模法人部門)に認定されました。



●インクルージョンの推進

障がいのある人材を継続して雇用し、障がいの有無にこだわらない心のバリアフリーを目指してフロアホッケー活動を行うなど、インクルージョンの推進を行っています。2021年2月には「特別支援学校就職サポート隊ひろしま」の推進企業にも選ばれました。



●コーポレートガバナンスと人材マネジメント

社員にとって働きやすい“いい会社”を目指して組織の整備を図りながら、様々なプログラムを実施しています。2021年度は“65歳までの選択式定年延長”と“対話を重視した評価制度”を新たにスタートさせ、全ての社員が活躍できる職場環境の整備を進めています。

監査等委員会設置会社による透明性の高い事業運営	
コンプライアンス研修	各種スキルアップ研修
女性の活躍推進	ワークライフバランス支援
最長65歳までの選択式定年制度	

●業務におけるDX推進

バリューチェーンの「販売」のパートで紹介したスマホ版のバックマーケットの展開や「物流」のパートに掲載したリアルデリバリーチェックシステムなど、DX(デジタル・トランスフォーメーション)を積極的に推進しています。社会全体がデジタル化している現在、DXの利点を活かしてさらなる価値創造を生み出していく予定です。



地域社会との共生

●子ども食堂への容器提供など

2020年から全国の子ども食堂に弁当容器やマスクの提供を行っています。また前述のリサイクル工場・選別センターへの見学受け入れ、出前授業の実施のほか、学生インターンシップや教員研修の受け入れなど、広く地域社会と共に生きる施策を展開しています。



●「エフピコ環境基金」を通じた地域社会との協働

エフピコ環境基金が助成する団体はすべて各々の地元をベースに活動しています。自分たちが住む環境をよりよいものにしようという思いを具現化する、地域社会に密着した活動です。こうした活動にエフピコの社員も積極的に参加しており、2021年度は約140名の社員とその家族がボランティアとして仲間に入れていただきました。



●各種地域社会活動への参画

事業所がある地域の様々なイベントなどに積極的に参加し、コミュニティの一員としてボランティア活動を行ったり、環境保全PR活動をしています。また、2020年3月より福山市総合体育館のネーミングライツを獲得し、「エフピコアリーナふくやま」として市民の皆様に親しまれています。



人材データサマリー

従業員の構成 (2022年3月末現在)	男	女	合計
従業員数	647	315	962
平均年齢	44.1	34.8	41.0
30歳未満	112	127	239
30～39歳	128	85	213
40～49歳	169	82	251
50～59歳	187	16	203
60歳以上	51	5	56
勤続年数	15.6	10.8	14.0
連結従業員数	3,655	1,137	4,792
外国人従業員数	0	1	1

離職者数	早期	自己	会社	転籍	その他	合計
2021年度	0	19	0	0	1	20

新卒入社者の定着状況	男	女	合計
2019年4月新卒入社者数	24	21	45
2022年4月在籍者	22	21	43

管理職に占める女性比率	女	男	女性比率
	36	376	8.7

障がい者雇用	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
実人数 (人)	359	358	362	365
障がい者雇用率 (%)	13.6	13.3	12.7	12.6

ワーク・ライフ・バランス	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
有給休暇取得率 (%)	51.7	53.6	49.3	56.1
一人あたり月平均残業時間	10	9.8	8.0	7.8
産休取得者数 (人)	25	25	12	15
育休取得者数 (人)	16	28	15	15
育児休業復帰率 (%)	100.0	92.3	96.0	95.2

環境データサマリー

製造部門2021年度データ

INPUT	エネルギー	電力	394,974,297 kwh
		化石エネルギー	86,226,586 MJ
	水資源	上水	543,375 m³
		地下水	192,558 m³
		工業用水	88,717 m³
	原料（樹脂類他）		213,474 t
	副資材	段ボール	40,423 t
		包装ポリ	3,597 t
	その他	潤滑油	8,895 L
		シンナー	70,050 L
		紙	2,452,500 枚

OUTPUT	製品	製品生産重量	213,760 t
		出荷トラック台数	168,060 台
	廃棄物		27,395 t
		煤塵	73 Kg
		NOx	5,338 Kg
		SOx	0 Kg
		BOD	4,220 Kg
		COD	7,218 Kg
		SS	4,968 Kg

物流部門2021年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	19,622,717 kwh
	化石エネルギー	2,640,510 MJ
水資源	上水	22,898 m³
その他	紙	9,201,807 枚

OUTPUT	
廃棄物	507 t

オフィス部門2021年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	3,628,453 kwh
水資源	上水	6,254 m³
その他	紙	4,378,000 枚

OUTPUT	
廃棄物	388 t

財務サマリー

回次		第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月		2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
売上高	(百万円)	173,580	181,171	186,349	187,509	195,700
経常利益	(百万円)	13,548	14,861	16,274	19,381	16,703
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	9,178	9,901	10,777	12,211	11,206
包括利益	(百万円)	9,806	9,332	10,461	13,021	11,118
純資産額	(百万円)	106,219	112,198	119,301	124,980	132,455
総資産額	(百万円)	244,147	249,332	242,497	247,234	262,695
1株当たり純資産額	(円)	1,280.09	1,351.67	1,436.07	1,520.06	1,610.11
1株当たり当期純利益金額	(円)	111.01	119.75	130.36	147.80	136.96
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	43.4	44.8	49.0	50.3	50.2
自己資本当期純利益率	(%)	8.9	9.1	9.4	10.0	8.8
株価収益率	(倍)	31.4	27.3	27.5	30.5	21.3
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	13,974	25,510	27,770	31,814	23,148
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△23,656	△17,109	△10,989	△19,131	△22,866
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△7,197	△4,908	△15,643	△15,086	1,578
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	15,659	19,151	20,288	17,884	19,745

※1 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

※2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

※3 当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、56期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり当期純資産を算定しております。

年 表

- 1962** 福山パール紙工株式会社設立。広島県福山市古宮町(現在の霞町)に福山本社を設置し、PSP成形加工を開始
- 1972** 福山配送センター(広島県福山市)を開設、以後各地に配送センターを設置
- 1976** 自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催
- 1979** 配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立
- 1981** 食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
- 1983** 東京支店(東京都練馬区)を開設
- 1985** 大阪支店(大阪府大阪市)を開設
関東工場(茨城県八千代町)稼働、以後各地に生産工場を設置
- 1989** CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める
広島証券取引所に株式上場
- 1991** 大阪証券取引所市場第二部に株式上場
- 1997** 代表取締役社長(当時)小松安弘が『藍綬褒章』を受章
- 2000** 特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県南国市)を竣工、以後各地に特例子会社の事業所を設置
東京証券取引所市場第二部に株式上場
- 2001** 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
- 2003** 東日本ハブセンター(茨城県八千代町)完工
- 2005** 東京証券取引所市場第一部及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
- 2006** 就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛バック(株)(現エフピコ愛バック(株))設立、以後各地に愛バックの事業所を設置
- 2012** PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
- 2013** 代表取締役会長小松安弘が『旭日重光章』を受章
- 2014** 福山クロスドックセンター稼働(広島県福山市)
エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工(広島県福山市)
- 2015** 経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出
経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定
経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞(製品・技術開発部門)」優秀賞受賞
- 2016** 代表取締役会長小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される
- 2017** 創業者 小松安弘永眠
- 2018** エフピコアルライト本社工場竣工
広島営業所新社屋竣工
平成30年度「スポーツエールカンパニー」認定(スポーツ庁)
- 2019** 第一回ジャパンタイムズESGアワード
- 2020** 福山市総合体育館のネーミングライツを取得した「エフピコアリーナふくやま」オープン
- 2021** 中部ハブセンター竣工
- 2022** 東京証券取引所プライム市場へ移行(証券コード：7947)



エフピコの環境関連事業・成果など

- 1980** トレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
- 1990** エフピコ方式のリサイクルスタート
- 1991** 「エコトレー」が業界初のエコマーク認定
- 1993** (財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞
- 2007** 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞
- 2011** 「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞
- 環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
- 再生PET容器「エコAPET」が(財)日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得
- 2015** 地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)受賞
- 2016** PETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働
- 2017** 「関東エコペット」工場稼働
- 2018** 「G20イノベーション展」に出展
- 2019** 「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」に幹事として参画
- 2020** 「エフピコ環境基金」設立
- 2021** 「カーボンオフセット宣言」発表
- 2022** 関東八千代エリアに「太陽光発電」導入
関東リサイクル工場で100%再エネ化導入
「エフピコ中長期目標FPEA(エフピコエコアクション)2.0」リリース
TCFDの提言へ賛同



稼働間もない中部エコペット工場の内部



関東八千代エリアの施設屋上に設置した太陽光パネル

ESGインデックス

環境・社会・企業統治(ESG)に対して優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを反映するインデックスに継続して名前を連ねています。(2022年5月時点)



FTSE4Good Indexは、世界主要企業約3,000社を対象とするESG評価に基づき発表されている指標。ESG(環境・社会・ガバナンス)のグローバル・スタンダードを満たす企業への投資を促進するようデザインされた株式指数シリーズ。

世界の**1,045**社の中の**1**社がエフピコ
※「FTSE4Good Developed Index」構成銘柄数

3年連続選出



ESGについて優れた対応を実践している日本企業のパフォーマンスを測定するために設計された指標。業種の比率が日本の株式市場と同等になるように構築され、銘柄の組み入れはSDGsを含む既存の国際基準を基に作成されたルールに基づく。

日本の**229**社の中の**1**社がエフピコ

3年連続選出



ロンドン証券取引所グループの「FTSE Russell」が開発した、環境・社会・企業統治(ESG)に対して優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを反映するインデックス。

日本の**493**社の中の**1**社がエフピコ

2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数(WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から同スコアの高い企業を選別して指数を構築。「FTSE Blossom Japan Index」同様、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が選定するESG指数の一つ。



写真はエフピコの「ボトル to トレー」をアピールするPETボトル回収車です。使用済みのペットボトルが食品容器にリサイクルされていることをご存知な方は多くないかも知れません。「エフピコはこんなこともしています」というアピールも含めてこのパッカー車をつくりました。

車両の後方に描いてあるイラストは環境がテーマのシーンで使用しているキャラクターなのですが、リサイクル工場などの限られた場所でしか登場しません。そこで、というわけでもありませんが、2022年に創業60周年を迎えるにあたり、社としてのキャラクターをつくることになりました。選りすぐりの候補数点を全社員による投票で選びます。間もなく皆様にご紹介できると思います。もしエフピコの新キャラクターをどこかで見かけることがありましたら、「ボトル to トレー」のことも思い出していただけると幸いです。

「エフピコレポート2022」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、当レポートに添えてありますアンケートに是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

国、自治体、各種団体からの表彰、認定



スポーツエールカンパニー認定



従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取り組みを戦略的に実践する企業として「健康経営優良法人 2022(大規模法人部門)」に認定されました。



エフピコグループは、英国の非営利団体CDPによる企業の気候変動への対応に関する調査「CDP気候変動 2021」に回答しました。



2014年度「ダイバーシティ経営企業100選」(経済産業省)に選ばれました。容器製造やリサイクルの現場において、障がいのある人材が活躍し、それが企業全体の価値につながっている、ということが評価されました。

2022年6月

環境対策室 ジェネラルマネージャー
富樫英治



エフピコレポート2022
発行日：2022年6月

編集方針

エフピコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

CSRIに関するレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2018年)」を参考にしました。

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日

対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

制作部門・問い合わせ先 株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オクタワース(総合受付36階)

TEL 03-5325-7809 FAX 03-5325-7811 E-mail: Env-FP@fpco-net.co.jp ホームページ: <https://www.fpco.jp/>



FPCO Report 2022



株式会社エフピコ

福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15

TEL (084) 953-1145

東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー 36F

TEL (03) 5320-0717

大阪支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F

TEL (06) 6441-2468

営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡